

Motomura・Mizohazama

本村・溝狭間遺跡（第2～5次調査）

Hirata・Souzumati

平田・僧津町遺跡（第2次調査）

Yabara

矢原遺跡群

令和2年度個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第133集

2022

八女市教育委員会

Motomura・mizohazama

本村・溝狭間遺跡（第2～5次調査）

Hirata・Souzumati

平田・僧津町遺跡（第2次調査）

Yabara

矢原遺跡群

令和2年度個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第133集

2022

八女市教育委員会

序

八女市内には多くの埋蔵文化財が遺跡として存在しており、原始古代から現代に至るまでの多くの先人の足跡が残されています。八女市教育委員会では、これらの遺跡のうち、工事等で現地に残すことが困難となった遺跡に関し、発掘調査を実施しています。

今回の報告は、令和2年度に個人住宅建設に伴い、国庫補助を受けて八女市本村・平田・矢原地内で実施した発掘調査等に関し、報告するものです。

本報告で実施した調査はいずれも小規模ですが、本村・溝狭間遺跡は令和になって新たに発見され、弥生時代から中世にかけての集落遺跡が展開していることが判明しました。平田遺跡群は旧来から遺跡の多い地域として把握されていて、本報告の平田・僧津町遺跡では、弥生時代から古代にかけての集落跡の一部を調査し、更なる知見が得られました。矢原遺跡群ではごく狭い面積の調査でしたが、既往の発掘調査事例がほとんど無く実態が不明瞭ななか、土器等を得て矢原遺跡群の詳細を知る資料が得られ、大きな成果となりました。

近年は社会情勢も一変し、農地が宅地として開発される事案が増えており、連動して遺跡も破壊の危機を迎える場面が生じています。今後も文化財を保護し、やむを得ず破壊される遺跡は必要な記録を作成し、八女市の過去を知る重要な資産である文化財を、未来に継承していく取り組みを継続したいと思います。

このたび発掘調査報告書を刊行するにあたり、本書が学術資料として活用されるのはもちろんのこと、文化財の保護や理解普及の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査や報告書作成にあたり、ご協力いただきました地元の方々、並びにご指導・ご助言いただきました方々に心より感謝の意を申し上げます。

併せて、今後も八女市の埋蔵文化財行政にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和4年3月31日

八女市教育委員会
教育長 橋本 吉史

例 言

- ・本書は八女市が国・県に補助を受けて実施した、令和2年度の個人住宅建設に伴う発掘調査の報告書である。本書では、八女市本村所在の本村・溝狭間遺跡第2次～第5次調査、八女市平田所在の平田・僧津町遺跡第2次調査の発掘調査、八女市矢原所在の矢原遺跡群について報告する。
- ・本報告の発掘調査は、国・県の補助を受け令和2年度、整理作業・報告書作成を令和2・3年度に八女市教育委員会が実施した。なお、現地調査は本村・溝狭間遺跡と矢原遺跡群は檀佳克（八女市教育部文化振興課）が担当し、平田・僧津町遺跡第2次調査は甲斐郁（同左）が担当した。
- ・本書の遺構実測図で使用する方位は、本村・溝狭間遺跡第2次調査は座標北、その他の調査は磁北を基準としている。本書図面で示す座標は世界測地系である。
- ・本書で使用した遺構実測図は、発掘調査実施時に現場担当者および発掘調査作業員で作成している。
- ・本書掲載の遺物実測図は、令和3年度に八女市文化財整理室で作成した。
- ・本書掲載図面の浄書は、令和3年度に八女市文化財整理室で作成し、編集等で平俊隆（八女市文化振興課 嘱託）の協力を得た。
- ・調査に際しては、下記の方々に現地にて指導・御教示御協力を得た。記して謝意を示したい。
大庭孝夫（福岡県文化財保護課）、梶佐古幸謙、坂本真一（九州歴史資料館）※所属は当時。
- ・本書の執筆・編集は、平の補助を得つつ、檀が行なった。なお、原稿作成にあたっては、檀担当以外の調査現場の所見を調査担当者を確認の上記載した。
- ・発掘調査時の現場図面・写真等の記録類および出土品等は八女市教育委員会が保管している。有効な活用を望む。

目 次

本文目次

1	調査の経緯と経過	1
2	調査地の位置と環境	2
3	調査の概要	3
(1)	本村・溝狭間遺跡(第2～5次調査)	3
①	本村・溝狭間遺跡第2次調査	5
②	本村・溝狭間遺跡第3次調査	6
③	本村・溝狭間遺跡第4次調査	7
④	本村・溝狭間遺跡第5次調査	7
⑤	小結	7
(2)	平田・僧津町遺跡(第2次調査)	9
①	調査の経緯と経過	9
②	調査の概要	10
③	遺構と遺物	11
④	小結	20
(3)	矢原遺跡群	22
4	総括	24

挿図目次

第1図	今回報告遺跡の位置
第2図	本報告遺跡の位置(旧八女市管内図)
第3図	本村・溝狭間遺跡の位置(S=1/6,000)
第4図	本村・溝狭間遺跡造成地調査区配置図(1次～6次調査分)
第5図	本村・溝狭間遺跡第2次調査区(S=1/200)
第6図	本村・溝狭間遺跡第2次調査出土遺物(S=1/4)
第7図	本村・溝狭間遺跡第3次調査区(S=1/200)
第8図	本村・溝狭間遺跡第4次調査区(S=1/200)
第9図	本村・溝狭間遺跡第5次調査区(S=1/200)
第10図	本村・溝狭間遺跡第5次調査出土遺物(S=1/4)
第11図	平田・僧津町遺跡の位置(S=1/6,000)
第12図	平田・僧津町遺跡第2次調査調査区全体図(S=1/60)
第13図	平田・僧津町遺跡第2次SB01実測図(S=1/50)
第14図	平田・僧津町遺跡第2次SB01①出土遺物1(S=1/4)

- 第 15 図 平田・僧津町遺跡第 2 次 SB01 ①出土遺物 2 (S=1/4)
- 第 16 図 平田・僧津町遺跡第 2 次 SB01 ②出土遺物 (S=1/4)
- 第 17 図 平田・僧津町遺跡第 2 次 SB01 ③出土遺物 (S=1/4)
- 第 18 図 平田・僧津町遺跡第 2 次 SB01 ④⑤出土遺物 (S=1/4)
- 第 19 図 平田・僧津町遺跡第 2 次 SD01 (S=1/50)
- 第 20 図 平田・僧津町遺跡第 2 次 SD01・SD02・SK02 出土遺物 (S=1/4)
- 第 21 図 平田・僧津町遺跡第 2 次 SD02 実測図 (S=1/50)
- 第 22 図 平田・僧津町遺跡第 2 次 SK02 実測図 (S=1/50)
- 第 23 図 平田・僧津町遺跡第 2 次 SK03 実測図 (S=1/50)
- 第 24 図 平田・僧津町遺跡第 2 次 ビット・排土出土土器 (S=1/4)
- 第 25 図 平田・僧津町遺跡調査区南側出土土器 (S=1/4)
- 第 26 図 平田・僧津町遺跡第 2 次 遺構外等出土遺物 (S=1/4)
- 第 27 図 矢原遺跡群令和 2 年度調査個所の位置
- 第 28 図 矢原遺跡群浄化槽掘削箇所出土土器 (S=1/4)

表目次

- 第 1 表 本村・溝狭間遺跡出土遺物観察表
- 第 2 表 平田・僧津町遺跡第 2 次調査出土遺物観察表
- 第 3 表 矢原遺跡群出土遺物観察表

1 調査の経緯と経過

A 調査に至る経緯と経過

今回報告する発掘調査は、令和2年度に個人専用住宅建設に伴って、現地保存が困難となった箇所に関し記録保存を行ったものである。

近年、八女市内では、宅地造成で農地が宅地になる事例件数が増加傾向にあり、連動して埋蔵文化財の試掘・確認調査件数も増加傾向にある。また、近年の自然災害等の増加に伴って建物基礎も杭工事・柱状改良等の深い工事掘削深度のものが増加し、連動して埋蔵文化財への影響が出る事案も増加している。このことから、遺跡の現地保存が困難となり発掘調査を要する事例も増加傾向にある。今回報告する発掘調査も、個人専用住宅建設に伴って、杭工事等により現地保存が困難な遺跡箇所について実施したものである。



第1図 今回報告遺跡の位置

B 調査体制

発掘調査時および報告書作成を実施した際の体制は、以下のとおりである。

【平成2年度】（現地調査時）

（調査主体） 八女市教育委員会

教 育 長	橋本 吉史
教育部長	原 信也
文化振興課長	久間 政幸
同 課長補佐兼	
文化係主任	深町 明夫（総括）
同 課長補佐兼	
文化係長	高山 康博
同 係 員	高口 愛（経理事務担当）
同 係 員	檀 佳克（調査担当）
同 係 員	甲斐 郁（調査担当）

【令和3年度】（本報告刊行時）

（調査主体） 八女市教育委員会

教 育 長	橋本 吉史
教育部長	原 信也
文化振興課長	鶴木 英希
同 課長補佐兼	
文化振興係長	森田 尚美
同 参事補佐兼文化財係長兼歴史文化交流館係長	
	片山 あづさ（総括・事務担当）
同 係 員	檀 佳克（本報告担当）
同 係 員	甲斐 郁
同 係 員	木原 堯
同	囑 託 平 俊隆

2 調査地の位置と環境 (第1・2図)

本書で報告する各遺跡は平成の大合併前の旧八女市地区内に位置しており、矢部川によって形成された沖積平野上に所在している。

現在は九州縦貫道と国道 442 号線が交わる交通の要衝であり、八女市内でも人口が増えている地域のひとつである。本村遺跡群は国道 442 号線バイパスと国道 3 号線が交差する八女市街地の北側に位置し、平田遺跡群は旧八女市北東部の八女丘陵部の裾部分、矢原遺跡群は旧八女市南端部の矢部川脇に所在する。各遺跡周辺の詳細は、各報告とともに概述する。

八女市の詳細な地理等については、既刊の報告書他を参照されたい。



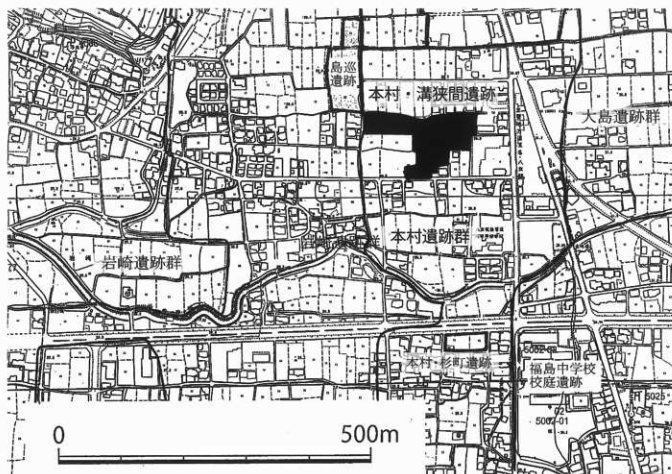
第2図 本報告遺跡の位置 (旧八女市管内図)

3 調査の概要

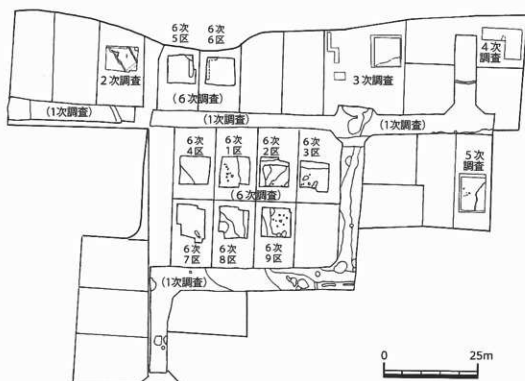
(1) 本村・溝狭間遺跡（第2～5次調査）

本村遺跡群は、八女市市街地北側に位置する遺跡群であり、市役所の北側約1Kmに位置する。これまでの調査で縄文時代後期から現代に至る遺構・遺物が包蔵されていることが知られる。今回の調査地は、従来の本村遺跡群範囲より北側にあたり、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外であった。調査の起因は、当該地に宅地造成の計画がなされたことによる。造成面積が広大であり、域内に道路建設も予定されていたことから、協議のうえ試掘・確認調査を行った。その結果、弥生時代から古代にかけての遺構・遺物が発見されたため、道路建設予定範囲に関して記録保存のための発掘調査を実施していた（本村・溝狭間遺跡第1次調査：近日報告書刊行予定）。

今回報告する本村・溝狭間遺跡第2次発掘調査は、上記宅地造成地内で杭工事等の基礎掘削を伴う個人住宅建設工事が計画され、遺跡の現地保存が困難となった箇所に関して実施したものである。なお、第2次調査実施中に同一造成地内の複数個所で杭工事を伴う住宅建設が発生したため、第5次調査まで続けて発掘調査を実施した。なお、令和2年度の当該造成地では、建売住宅建設に伴い、本報告とは別に9区画の発掘調査を実施している（報告書第137集）。



第3図 本村・溝狭間遺跡調査区位置図 (S=1/1,000)



第4図 本村・溝狭間遺跡造成地調査区配置図（1次～6次調査分）

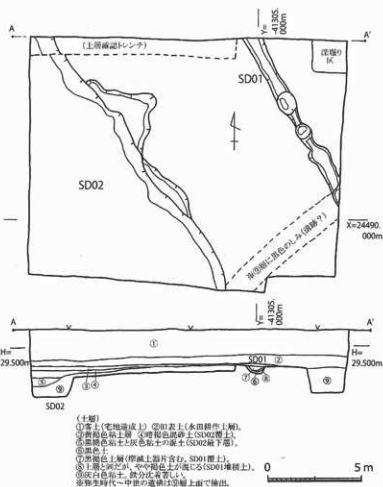
① 本村・溝狭間遺跡第2次調査
(第5・6図)

造成地内の北西箇所で開催した調査である。現地地表約60cmの深さで、調査区内を南北方向に延びる溝状遺構1(SD01)を検出したほか、調査地西半部分で地形の落ち込みを検出した。この地形の落ち込みは、SD02と命名して調査を実施したが、調査時の土層やその後の工事に伴う調査等から、低湿地域である可能性がある。

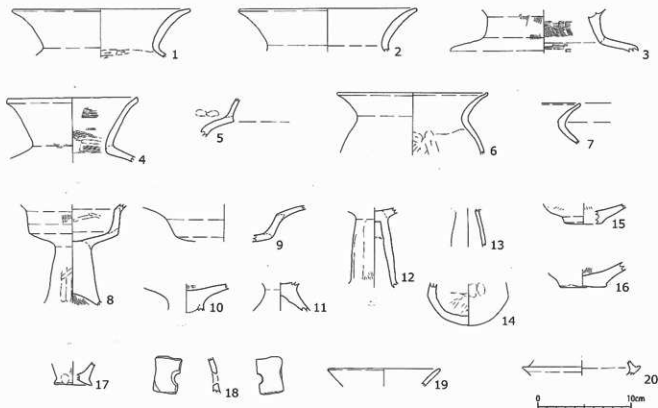
この地形の落ち込みの中から、古式土師器や古代に属する土器が検出された。

第6図に2次調査地の出土遺物を示すが、全てSD02からの出土である。

1～5は古式土師器の壺形土器で、1・2・4は直口縁、3・5



第5図 本村・溝狭間遺跡第2次調査区
(S=1/200)



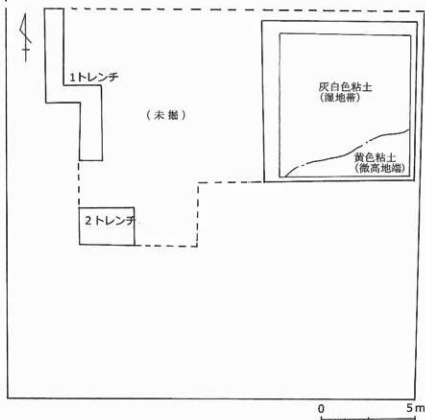
第6図 本村・溝狭間遺跡第2次調査出土遺物 (S=1/4)

は二重口縁で、3は布留式系、5は在来系の二重口縁壺である。6・7は古式土師器の甕形土器で近畿第V様式変容系・布留式系の製作技法の影響がみられるが、胎土には片岩砂礫が混入し、矢部川流域での製作である。8～13は土師器の高坏である。8・9は布留系の有段高坏、10は九州在来系、11は小型器台、12・13は脚部が柱状になる高坏である。14は小型丸底土器の下半部であるが、やや組成な作りである。15は甕形土器もしくは鉢形土器の底部で、近畿第V様式変容系の影響がみられる。16は甕形土器の底部で底部外面に木葉痕があり、弥生時代に属し、弥生時代前期～中期に属すると思われる。17はミニチュア土器の底部片、18は穿孔のある胴部片で補修ないし再利用がなされているが詳細は不明である。19は土師器の坏で古代に属し、20は須恵器の坏で古墳時代に属する。

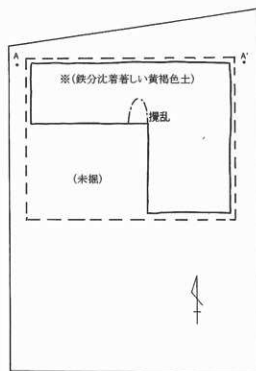
本村・溝狭間遺跡第2次調査では、東半部に微高地があり西半部は低湿地上の落ち込み(SD02)が確認され、調査地から南方向・東方向に微高地が存在している状況が確認された。2次調査地は溝狭間集落域の西端微高地の一端に位置する事が判明した。

②本村・溝狭間遺跡第3次調査（第7図）

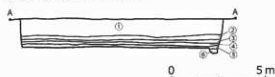
本村・溝狭間3次調査区は、造成地の北端部中央付近に所在し、杭工事を伴う個人住宅建設箇所を調査対象として、後述する4次調査地と同時期に発掘調査を実施した。



第7図 本村・溝狭間遺跡第3次調査区 (S=1/200)



- (土層)
 ①造成地土(黄褐色) ②造成地土(黄褐色土)
 ③粘土層(未掘) ④(微高地土) ⑤(微高地土)
 ⑥黄褐色土層(鉄分多く含む)
 ⑦黄褐色粘土(有機質片を含む低地帯)



第8図 本村・溝狭間遺跡第4次調査区

表土除去を行った結果、当初想定に反して旧地表面がかなり低くなる状況が確認され、現地表下約 150 cm の遺構検出面相当の黄褐色粘土上には、湿地帯の堆積である暗褐色粘土が堆積している状況であった。調査予定地の 60% 程度の表土を除去し精査したが、埋蔵文化財は確認できなかったため、遺構・遺物は存在しないと判断し掘削を終え、記録作成を行った後に調査を終了した。

③本村・溝狭間遺跡第 4 次調査（第 8 図）

本村・溝狭間 4 次調査区は、造成地の北東端に位置する。個人住宅建設予定箇所表土除去を実施したところ、調査範囲は当初想定に反し低地域と判明し、現地表下約 120 cm で湿地帯の堆積が広がる状況が確認された。精査を行ったが遺構・遺物等の埋蔵文化財は確認できなかった。4 次調査地は、北側に広がる湿地帯の一部であると思われる。このことから、記録作成後、2 日間で調査を終えた。前述の 3 次調査と併せて、造成地の北端付近が本村遺跡群の集落域の北端に位置することが判明したのは、大きな成果であった。

④本村・溝狭間遺跡第 5 次調査（第 9・10 図）

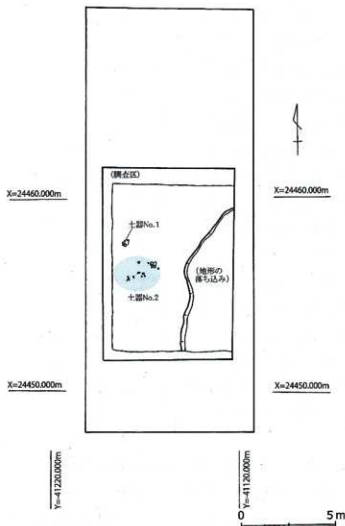
本村・溝狭間遺跡第 5 次調査地は、造成地の南東端に位置する。杭工事の個人住宅が予定された箇所について発掘調査を実施した。

表土除去を行った結果、調査区現地表下約 80 cm（旧表土層直下）で遺構検出面相当の黄色粘土層が検出され、当該造成地内でも旧地表面が高い微高地域にあたることを判明した。表土除去の結果、明確な遺構は確認できなかったが、調査区西側中央付近で地表面がわずかにくぼむ箇所があり、土器が集中して出土する箇所が確認された。

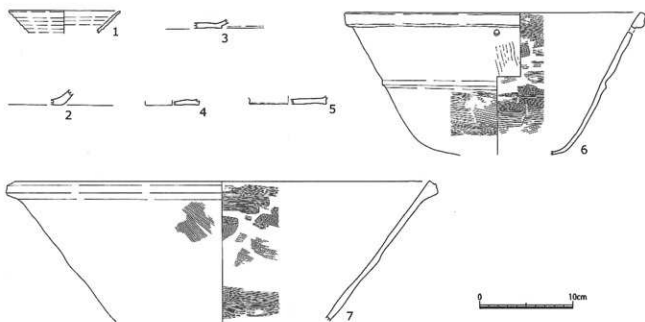
以下、本村・溝狭間遺跡 5 次調査の出土遺物について述べる（第 10 図）。1 は表土層から出土した坏で古代に属する。2～7 は黄色粘土層上面で検出した土器で、2～5 は坏、6・7 は鉢形の土鍋である。1・3 は古代、それ以外は中世・近世に属する。

⑤小 結

以上、令和 2 年度の個人住宅建設に伴い実施した本村・溝狭間遺跡第 2 次～第 5 次調査に関し、調査の概要と成果を示した。本村・溝狭間遺跡は令和



第 9 図 本村・溝狭間遺跡第 5 次調査区
(S=1/200)



第10図 本村・溝狭間遺跡第5次調査出土遺物 (S=1/4)

2年度当初段階では周知の埋蔵文化財包蔵地外であったが、宅地造成工事に伴い実施した試掘・確認調査で集落遺跡が存在することが判明し、周知の埋蔵文化財包蔵地「本村遺跡群」に範囲追加した箇所である。結果として、第2次調査区と第5次調査区で遺構・遺物が確認され、第3次調査区と第4次調査区は集落域外低地帯と判明した。ただし、今回の造成地の大半の箇所が弥生時代から中世・近世にかけての微高地集落域に位置することも、第1次調査～第6次調査（第6次調査は別冊で報告）で判明している。

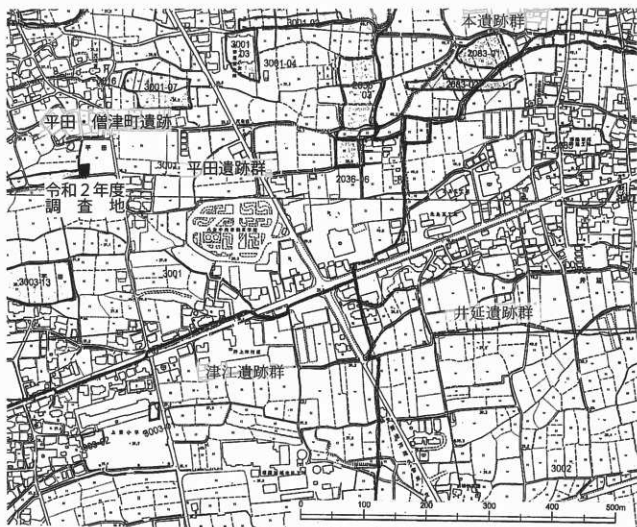
今回の調査地点も国道3号線に近く、近年周辺では水田域箇所が開発事例が多く、東側の八女市大島地区・納楚地区につながる集落跡が広がっている状況が徐々に鮮明になりつつある。今回の「本村遺跡群」の範囲は、「大島遺跡群」・「納楚遺跡群」と一連の遺跡である可能性も高く、本村遺跡群西側の状況も再整理し、今後の調査事例を含めて周知の埋蔵文化財包蔵地の再検討が必要と思われる。

(2) 平田・僧津町遺跡（第2次調査）

①調査の経緯と経過

平田遺跡群は、八女市役所から東北東に約2K mの、八女市街地東端付近に位置している。平田遺跡群およびその周辺では、過去の圃場整備事業でも多くの遺跡が発見されている。平田・僧津町遺跡の発掘調査の起因は、宅地造成が計画されたことによる。造成工事前に実施した試掘・確認調査の結果、造成地内にも埋蔵文化財が存在することが判明した。造成工事は盛土造成であったため、大半の遺跡は現地保存とし、造成地域内道路箇所については記録保存の発掘調査を実施した（平田・僧津町遺跡第1次調査：報告書近日刊行予定）。その後、大半の箇所の個人住宅では遺跡の現地保存が可能であったが、杭工事を伴う個人専用住宅建設が1区画で計画され、遺跡の現状保存が困難な状況となった。このため、今回の平田・僧津町遺跡第2次調査は、建物部分に関して発掘調査を実施したものである。

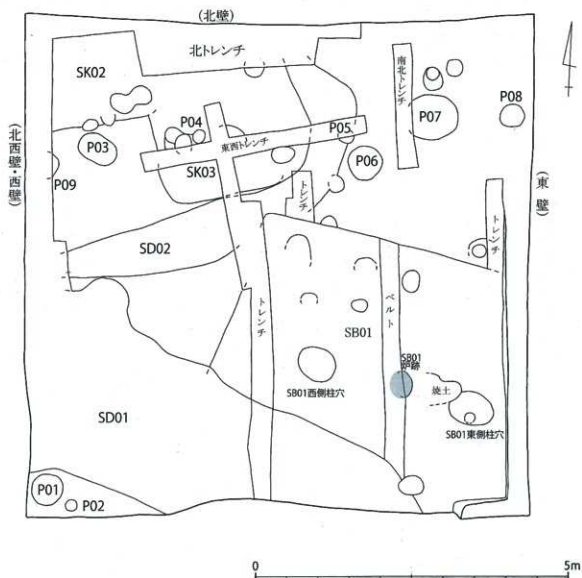
なお、造成地内のその他の箇所では、造成盛土内で基礎工事が完了する住宅建設であったため、1・2次調査地以外の遺構は現地に保存されている。今後も平田・僧津町遺跡内および周辺での開発に際しては、細心の注意を要する。



第11図 平田・僧津町遺跡の位置

②調査の概要

平田・僧津町遺跡第2次調査では、重機を用いて表土除去後、遺構検出面相当の黄褐色土層上面で遺構を検出したが、遺構の重複が多く、遺構の把握が困難であった。その為、複数個所にトレンチを設定して遺構の範囲・前後関係の把握に努めた。その結果、調査の不手際により、遺構の形状が不明瞭となってしまった箇所や一部の遺物で所属遺構が不明瞭となっている。このため、以下では遺構の形状等は調査で把握できた範囲で示し、トレンチ内出土の遺物のうち遺構の所属が不明瞭となった一群は、調査時に掘削したトレンチ毎に一括して報告する。



第12図 平田・僧津町遺跡第2次調査調査区全体図 (S=1/60)

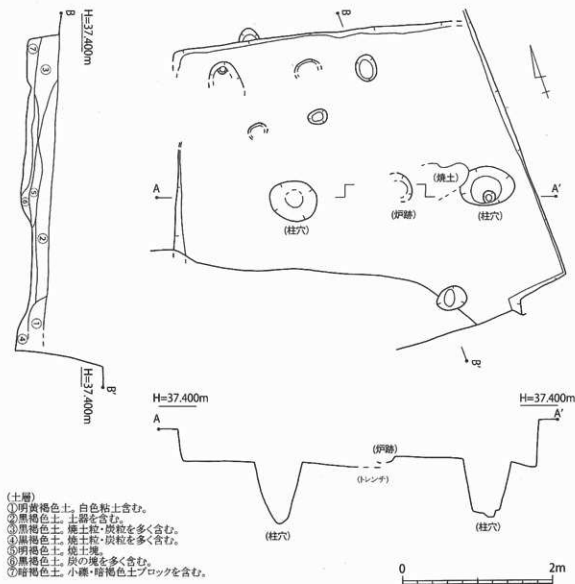
③遺構と遺物

平田・僧津町遺跡第2次調査では、竪穴建物1棟（SB01）、溝状遺構2（SD01・02）および、土坑2基（SK02とSK03：SK01は欠番）ピット25基以上を検出した。以下にその概要を示す。

1号竪穴建物跡（SB01）（第12～第18図）

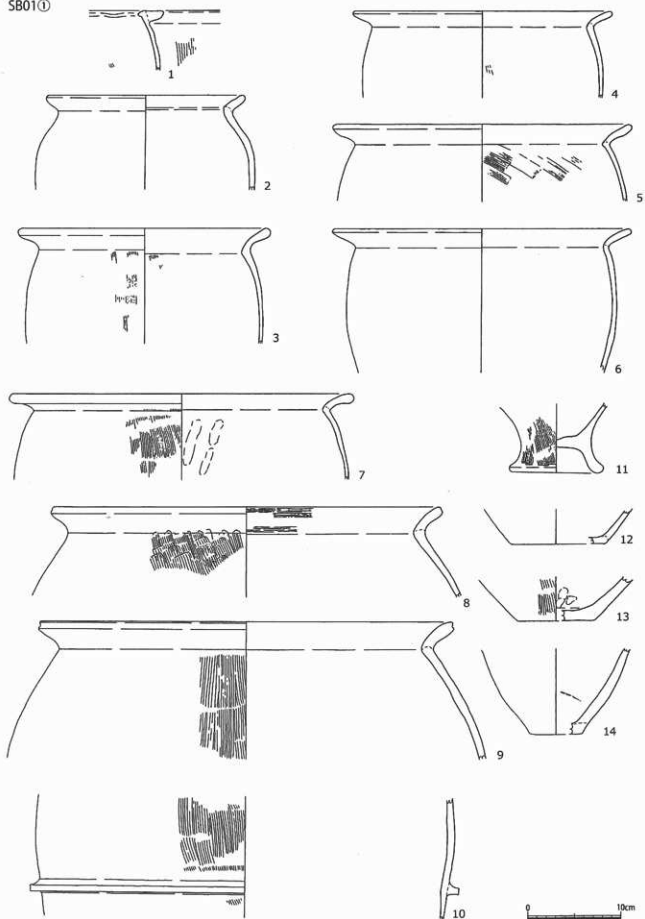
調査区南東で検出した竪穴建物である。遺構の南端および東端は調査区外に延びている。東西方向の2箇所で見られる主柱穴と思われるピットがあり、その中間で炉跡と思われる焼土が検出されている。主柱穴の配置状況から、東西方向に主軸を持つ長方形2本主柱で中央に炉を持つ竪穴式住居跡と判断される。

SB01出土遺物を第13～17図に示す。なお、SB01は当初2軒以上の竪穴建物の可能性が考えられたことから、遺構全体を5分割して①～⑤の単位で区分けして取り上げを行っている。①が北東部、②が南東部、④が南西部であり、北西部東半が③、北西部西半が⑤となっている。



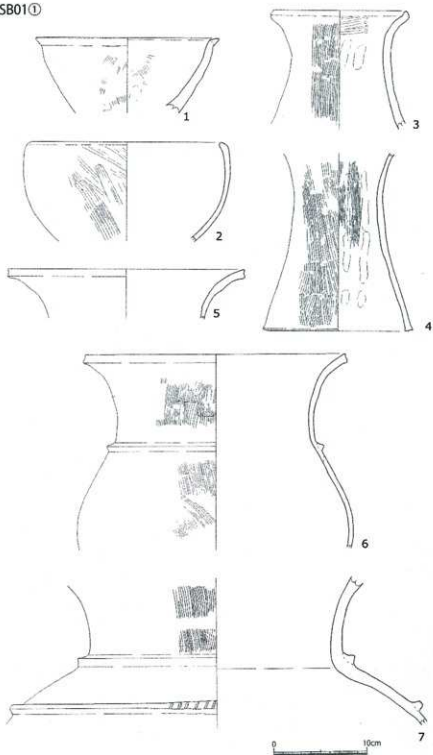
第13図 平田・僧津町遺跡第2次 SB01 実測図 (S=1/50)

SB01①



第 14 図 平田・僧津町遺跡第 2 次 SB01 ①出土遺物 1 (S=1/4)

SB01①



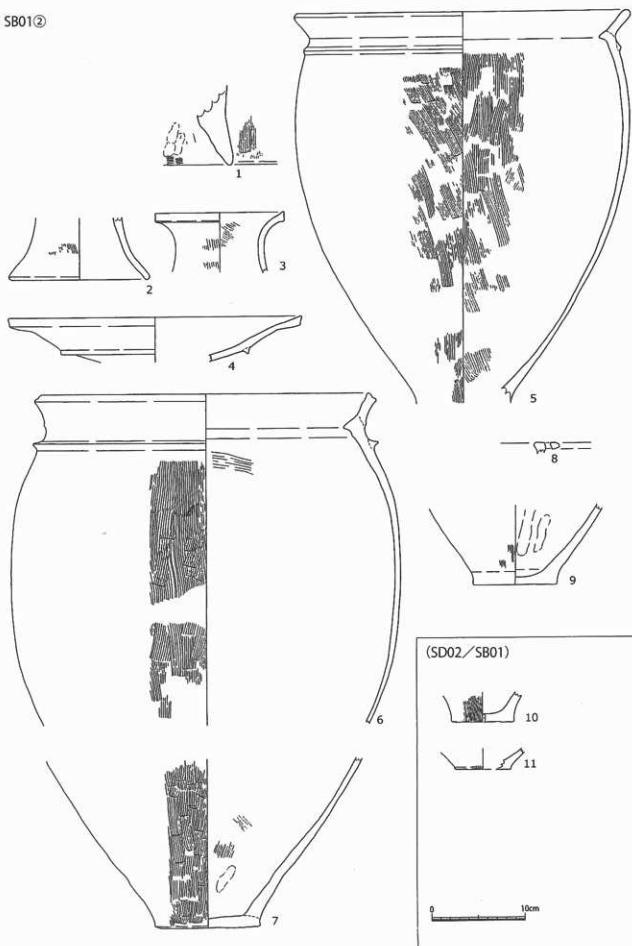
第15図 平田・僧津町遺跡第2次 SB01 ①出土遺物2
(S=1/4)

SB01 出土遺物を第14～18図に示す。第14・15図はSB01 ①出土の土器である。第14図は甕形土器であり、口縁部(1～9)は一部の鋤先状口縁を除けば、残存状況の良い破片は「く」字形口縁で占められる。胴部片は突帯を有するものが確認される(10)。底部(11～14)は、脚台を有するもの(11)と、平底のもの(12～14)が存在する。第15図1・2は鉢形土器、3・4は筒形器台、5～7は壺形土器である。

SB01 ②出土土器を第16図に示す。1は支脚と思われる。2は高坏ないし鉢形土器の脚部、3は壺形土器の口縁部、4は高坏の坏部である。5～8は甕形土器で頸部内面が肥厚する鋤先口縁であり、弥生時代中期のものである。なお、10と11は、SB01とSD02が重なる箇所出土したものである。

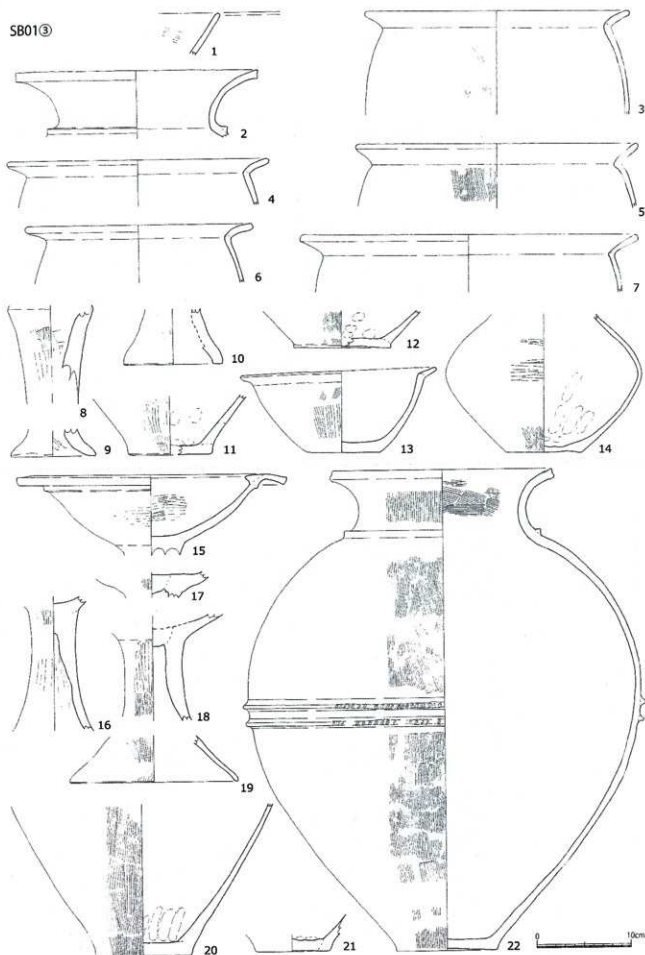
SB01 ③出土土器を第17図に示す。1・2は壺形土器、3～7は甕形土器の口縁部片である。8～10は筒形器台である。8・9は同一個体と思われる、やや細長い形状をしている。11～13・20は甕形土器ないし壺形土器の底部片、14は広口壺の胴部片である。15～19は高坏である。22は壺形土器で、頸部および胴部中央に突帯を有する。

SB01②

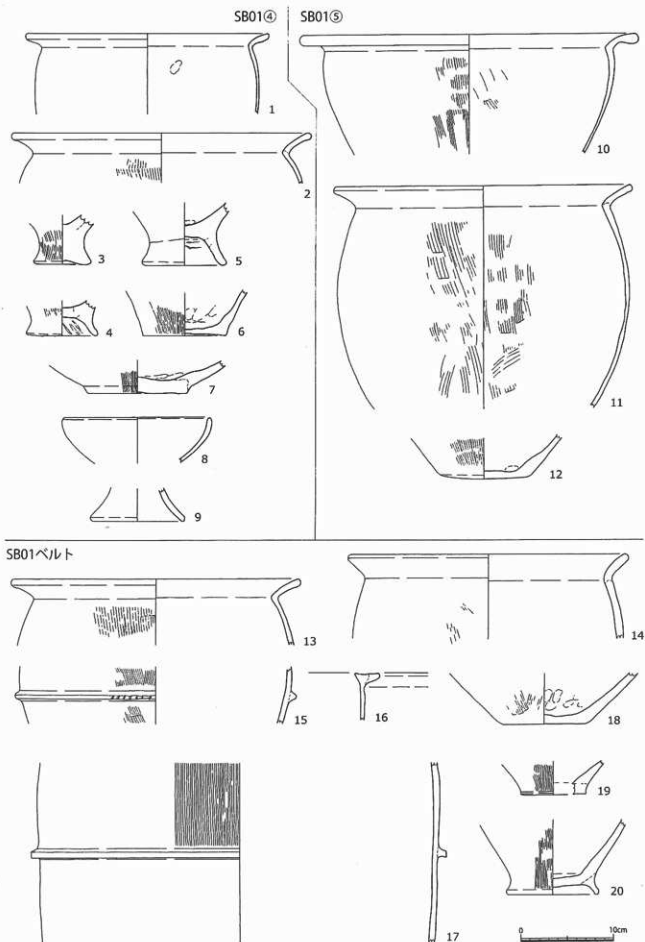


第 16 図 平田・僧津町遺跡第 2 次 SB01 ②出土遺物 (S=1/4)

SB01③



第17圖 平田・僧津町遺跡第2次SB01③出土遺物 (S=1/4)



第18図 平田・僧津町遺跡第2次 SB01 ④⑤出土遺物 (S=1/4)

SB01 ④出土遺物を第18図1～9に示す。1～6は甕形土器、7は壺形土器の底部、8は鉢形土器、9は器台脚部であり、弥生時代中期～後期に属する。

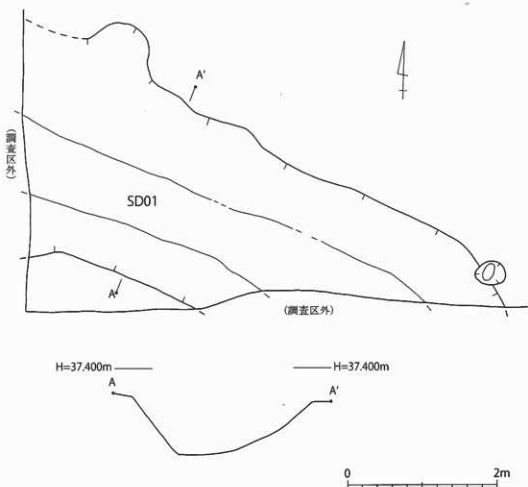
SB01 ⑤出土土器を第18図10～12に示す。いずれも甕形土器で弥生時代後期に属する。

SB01 出土土器は、一部に鋤先口縁の土器が入るものの、その他の大半の土器は弥生時代後期に属する。平面形が長方形で2本主柱という建物跡の特徴から、SB01 自体の時期は弥生時代後期に属する。ただし、弥生時代中期に属すると思われる土器でも残存状況が良いものが含まれており、弥生時代中期の建物跡である可能性や、今回の調査で把握できなかった弥生時代中期遺構が存在していた可能性もある。

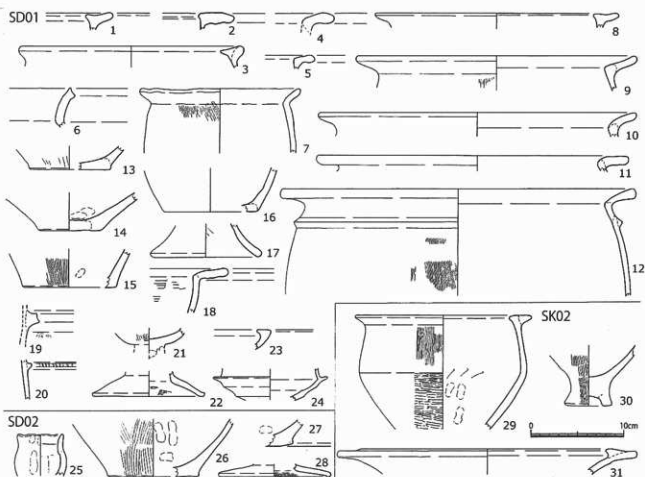
1号溝状遺構 (SD01) (第18～第19図)

SD01 は調査区の南西で北西～南東方向に直線的に伸びる溝状遺構である。断面形状は逆台形を呈しており、水路等の水が流れた痕跡は確認されなかった。幅は楽2.4 m、深さは残存する部分で約80 cmであり、遺跡の土層の残存を考慮すると深さ1 m程度の溝であった可能性が高い。今回の調査で確認された範囲のみでは全体の形状把握は困難であるが、集落域を区画する堀等の機能が想定される。

SD01 から出土した遺物を第20図に示す。第20図1～12は甕形土器の口縁部である。1～3・8は鋤先口縁で弥生時代中期、4・5～7・9～12は「く」字形口縁で弥生時代後期に属する。13～16は甕形土器ないし壺形土器の下半部・底部である。17・18は甕形土器ないし鉢形土器



第19図 平田・僧津町遺跡第2次 SD01 (S=1/50)



第20図 平田・僧津町遺跡第2次 SD01・SD02・SK02 出土遺物 (S=1/4)

の脚部・口縁部で、弥生時代後期に属する。

19・20は刻目突帯のある胴部片、21・22は高坏である。

2号溝状遺構 (SD02) (第20・21図)

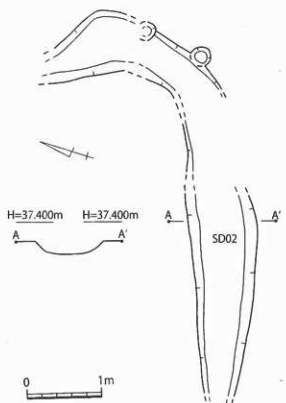
調査区北側で発見した溝である。東西方向に延びており、東側で北側に曲がる平面形状で、幅約1m、深さ約20cmの浅い溝である。形状等から、区画等に伴う溝であると思われる。

SD02 出土遺物を第20図25～28に示す。25はミニチュア土器で、甕形土器と思われる。26・27は甕形土器の底部で弥生時代後期と思われる。28は古式土師器の高坏脚部である。

2号土坑 (SK02) (第20・22図)

SK02は、調査区北西端で検出した土坑で、平面形は方形を呈すると思われるが、形状は正確には把握できていない。

出土遺物を第20図29～31に示す。29・30



第21図 平田・僧津町遺跡第2次 SD02 実測図 (S=1/50)

は甕形土器、31は高坏の坏部である。口縁部が鋤先状となっている特徴から、弥生時代中期に属し、1次調査時の類似遺構の存在からも、SK02は弥生時代中期の所産と思われる。

3号土坑 (SK03) (第23図)

SK03は、調査区北側中央で検出した土坑であるが、複数のビット状遺構が重なっていたこともあり、検出時に把握が困難であったため、遺構の形状が不明となった箇所もある。長辺約1.5m、短辺約1m、残存する深さ約10cmの、楕円形の土坑であったと思われる。図化可能な遺物は確認されなかったが、弥生時代の土器小片の出土が確認されている。

その他の遺構 (第12図)

そのほか、ビットが25基以上検出されている。掘立柱建物跡や柵列等の可能性も限られた調査区の中で検討したが、明確とならなかった。

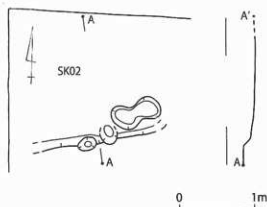
ビットより出土した土器を第24図1～3に示す。1はP05、2はP02、3はP03より出土した。いずれも土師器で4世紀後半～5世紀初に位置付けられる。

遺構外出土遺物等 (第25・26図)

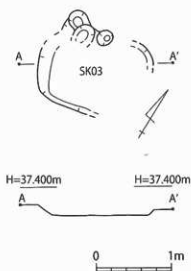
以下では、遺構外から出土した遺物について報告する。なお、当初に述べたとおり、調査時には遺構の検出が難しく、十分に遺構が把握できていなかったことにより、遺構把握のトレンチから出土した遺物では、結果的にどの遺構に帰属するのか不明となってしまう不手際があった。ここでは、調査時のトレンチ毎に出土遺物を報告する。

排土中出土土器 (第24図)

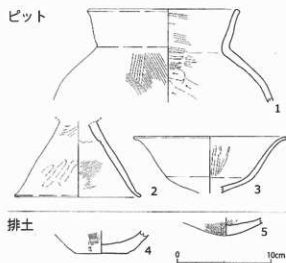
24図4・5は、調査排土中から発見された土器である。底部片で、4は弥生後期の甕形土器、5は古式土師器の甕形土器の底部である。



第22図 平田・僧津町遺跡第2次 SK2 実測図 (S=1/50)



第23図 平田・僧津町遺跡第2次 SK03 実測図 (S=1/50)



第24図 平田・僧津町遺跡第2次 ビット・排土出土土器 (S=1/4)

調査区南側出土土器（第25図）

調査区南側として取り上げた土器は、調査区南半部で出土した土器である。出土遺物を第25図に示す。1～7は甕形土器であり、口縁部は鋤先口縁のもの（4）と、「く」字形口縁（1～3）があり、胴部は突帯を有するもの（4・5）があり、底部は平底（6）と、脚台（7）がある。弥生時代中期から弥生時代後期にかけての土器である。

第25図8は須恵器の坏の破片、9は丹塗りの高坏の脚部、10・11は壺形土器である。

北壁・北トレンチ出土土器

（第26図）

「北壁」としているものは、調査区北壁で発見した遺物で、「北トレンチ」としているものは調査

区内北端に土層観察を目的として設定したトレンチ内で出土した遺物である。よって、SD02やSK02の遺物の一部が含まれている可能性がある。

第26図1～10は、北壁出土の土器である。1～3は甕形土器、4は甕形土器の底部片、5はミニチュア土器の鉢、6、8～9は高坏、10は器台である。弥生時代中期から古墳時代にかけての遺物が確認される。

第26図11～15は北トレンチ出土の遺物である。11～13は甕形土器の口縁部片で、弥生時代中期に属する。14は土師器の高坏脚部、15は小型の甕形土器である。

第26図16、17はSK03箇所を東西に縦断する形で設定した「東西トレンチ」出土の土器である。16は土師器の高坏坏部、17は甕形土器で弥生時代後期と思われる。

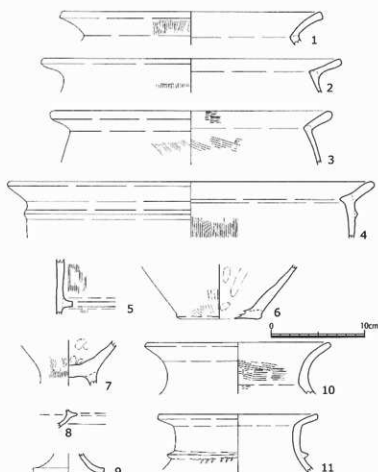
第26図18～25は調査区東壁出土の土器であり、SB01の遺物を含むと思われる。18は鉢で弥生時代後期、19～23・25は甕形土器、24は壺形土器である。

第26図26～28は調査区北西壁出土の土器で、SK02の遺物が含まれる可能性がある。26は高坏の脚部、27・28は底部片である。弥生時代中期・後期の土器である。

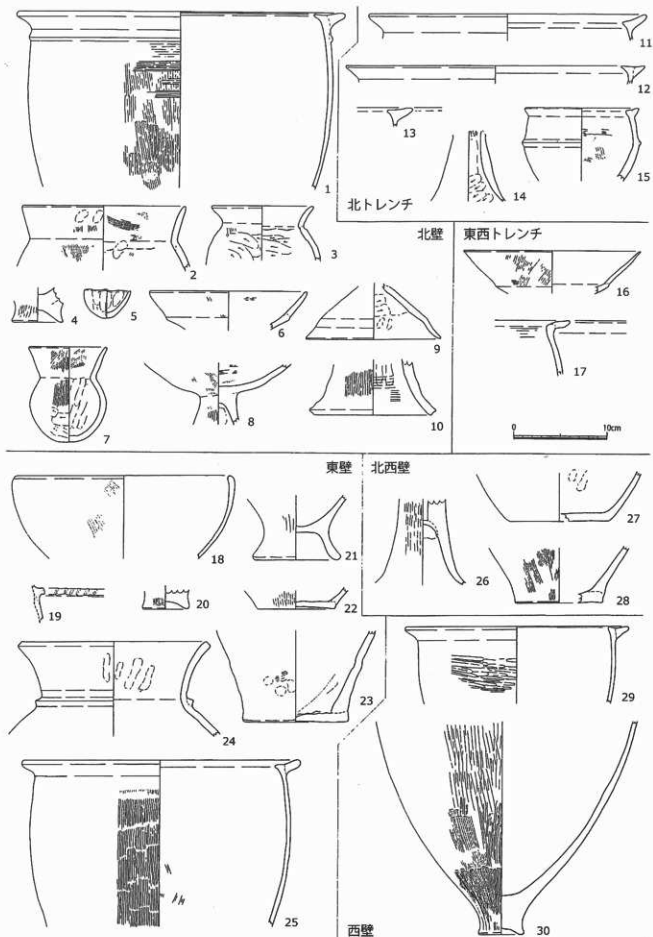
第26図29・30は西壁出土の甕形土器で、弥生時代中期に属する。

④小結

以上が平田・僧津町遺跡第2次調査の概要である。弥生時代の堅穴建物跡1、溝状遺構2、土坑2の他、ピットを検出した。当該宅地造成に先立ち調査をした1次調査でも同様の遺構・



第25図 平田・僧津町遺跡調査区南側出土土器（S=1/4）



第 26 図 平田・僧津町遺跡第 2 次 遺構外等出土遺物 (S=1/4)

遺物が発見されており、周辺現況地形からも、当該地より東側の微高地上に集落遺跡が展開すると思われ、過去の圃場整備事業で発見された集落遺跡と一連の集落跡と思われる。今後の調査でより集落の状況が鮮明になることを期待するとともに、今後も周辺開発に際しては細心の注意を要する。

(3) 矢原遺跡群（浄化槽箇所）（第27・28図）

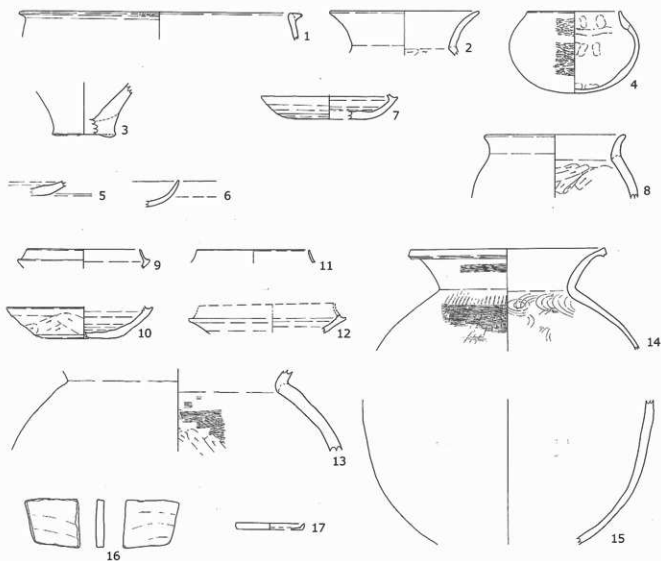
①調査の経緯と経過

矢原遺跡群が所在する八女市矢原地区は、旧八女市の南端に位置し、南側に隣接して矢部川が流れ、矢部川は矢原集落南側付近でカーブを描いている個所があり、そこに河原が形成されている。矢原地区付近は周辺と比して現地形が高くなっており、矢部川によって形成された自然堤防上に位置している。矢原遺跡群ではこれまで発掘調査歴に乏しく、遺跡の詳細は不明な点が多かったが、過去の浄化槽立会や踏査で土器等の出土・散布が確認されていた。

今回の調査の契機は、個人専用住宅建設が計画されたことによる。建物基礎は造成盛土に収まる程度に浅かったが、合併浄化槽埋設箇所は深い掘削がなされるため、掘削時に工事立会を実施したところ、多くの土器の出土が確認されたため、調査に切り換えて遺物の採集と遺構の把握に努めた。結果として、浄化槽掘削箇所全体が、土坑状の遺構の中である状況と判断した。以下で示す遺物は、すべて同一遺構の所産と思われる。



第27図 矢原遺跡群令和2年度調査個所の位置



第28図 矢原遺跡群浄化槽掘削箇所出土土器 (S=1/4)

②出土遺物

第28図に出土遺物を示す。1は甕形土器の口縁部片で弥生時代前期と思われる。2・3は土師器の壺形土器で、3の胴部外面には丁寧なミガキがなされる。4は甕形土器の底部片で弥生時代後期と思われる。5～7は須恵器の坏の小片である。8は土師器の甕形土器、9～12はやや軟質の須恵器の坏で、11と12は同一個体と思われる。13は土師器の壺形土器、14・15は須恵器の甕形土器、16は陶器の胴部片であるが割面に研磨に近い摩耗が確認され、砥石等として再利用された痕跡がある。17は土師器の小皿である。土器は、弥生時代から中世にかけてのものが確認されるが、古墳時代後期と思われる遺物が多くみられる。

③小 結

以上、矢原遺跡群の個人専用住宅建設に伴う、浄化槽設置個所での深い掘削で出土した遺物に関して概要を示した。矢原遺跡群ではこれまで大型開発が入る状況が無く、既往の調査例に乏しい。今だに遺跡の様相は不鮮明な部分が多いが、今回の調査で弥生時代から古代にかけての遺物が確認され、当該遺跡の様相がより鮮明となった。今後の調査事例の増加に期待したい。

4 総 括

以上、国庫補助を受けて実施した、個人住宅建設関連発掘調査の成果について記した。成果については各報告を参照頂きたいが、最後に総括として、各遺跡での成果の意義と、今後の課題について述べたい。

本村・溝狭間遺跡では、従来は周知の埋蔵文化財包蔵地「本村遺跡群」の北側に位置し、範囲外であった箇所である。宅地造成を契機として試掘・確認調査を実施し、本村遺跡群が北側に広がる状況が確認された。本村・溝狭間遺跡を含む本村遺跡群東半箇所でも最も古いものは、縄文時代後期の土器が数箇所出土している。その他、弥生時代から古代にかけての各時期の集落に伴う遺構・遺物が確認されており、長期間にわたる人々の生活の痕跡がうかがえる。本村・溝狭間遺跡周辺では東側の大島遺跡群・納楚遺跡群で弥生時代から中世にかけての集落跡が展開している状況がみられ、北東側約 100m の現：柳病院周辺では古代から中世にかけての青磁等輸入陶磁器が出土する箇所がある。併せて、本村・溝狭間遺跡から南南東約 300m の福島中学校付近でも、集落跡に伴う遺物が確認されており、その南側約 30m 付近で低地域となる。本村・溝狭間遺跡は、本村地区の東側にある大島地区を中心とした大集落跡の北東端付近に位置すると思われる。今後の調査事例増に期するところも多いが、遺跡地図のさらなる見直しが必要である。

平田・僧津町遺跡では、当初からの予見通りに弥生時代・古代中世の集落跡が確認され、堅穴建物 1 溝状遺構 2・土坑 2・ピット多数が発見された。平田地区では弥生時代から古墳時代にかけての外來系遺物もあり、特に今回調査地の東側では圃場整備で多くの調査がなされ、また現在でも土器の散布が確認されるため、今回調査箇所周辺での開発には、文化財保護のための細心の注意を要する。

矢原遺跡群では、未だ実態が不明瞭ではあるが、浄化槽工事という限られた範囲での確認ではあったが、土器等が出土し矢原遺跡群の様相を知る資料の増加があった。

近年の八女市では、合併前の旧八女市エリアが顕著であるが、農地の宅地化が顕著であり、常に遺跡破壊の危機が迫っている現状である。今回報告した遺跡周辺に限らず、八女市内には上記の通り重要な遺構・遺物が埋蔵されている可能性が高いため、今後も細心の注意が必要である。

第1表 本村・溝狭間遺跡発掘調査(第2次・第5次) 出土土器観察表

発掘調査 探検番号	発掘調査 番号	出土 地点	器形	焼成 (外壁 /内面)	胎土	成形・整形手法等	寸 法		備 考 (修理・残存等)
							口径 (単位)	高さ (単位)	
【本村遺跡第2次】									
第1回	1	R 5	土師器	軟質	灰白・黄石・角閃石・片岩を含む。	内外面共にハケ目後コナズ。胴部内面ケズリ。	19.0	(5.2)	小片。
第2回	2	R 5	土師器	軟質	灰白・黄石・角閃石・片岩を含む。	内外面共にハケ目後コナズ。	19.0	(4.6)	小片。黒斑有。
第3回	3	R 11	土師器	軟質	黄灰・片岩・赤色粒を含む。	内外面共にハケ目後粗いナズ。	-	(4.7)	小片。布留系の影響。
第4回	4	R 17	土師器	軟質	黄灰・片岩・赤色粒を含む。	内外面共にハケ目後ナズ。	14.0	(6.9)	約1/5残存。
第5回	5	R 12	土師器	軟質	黄灰・片岩・角閃石・片岩を含む。	内外面共にハケ目後ナズ。口縁部縁面側に指押さえ痕が顕著にみられる。	-	(4.2)	口縁部小片。未定形。
第6回	6	R 15	土師器	軟質	灰白・片岩を含む。	内外面共にハケ目後ナズ。胴部内面ケズリ。	15.9	(6.6)	小片。布留系の影響。
第7回	7	R 21	土師器	軟質	黄灰・片岩・赤色粒を含む。	内外面共にハケ目後ナズ(やや厚縁)。	-	(4.3)	口縁部小片。布留系の影響。
第8回	8	R 21	土師器	軟質	黄灰・片岩・赤色粒を含む。	内外面共にハケ目後ナズ。胴部内面および脚部外面にミダナ。	-	(10.8)	口縁部・脚部を欠く。煮炊器。
第9回	9	R 16	土師器	軟質	黄灰・片岩・赤色粒を含む。	内外面共にナズ。	-	(3.9)	碎部のみ残存。
第10回	10	R 6	土師器	軟質	黄灰・片岩を含む。	内外面共にハケ目後ナズ。	-	(3.1)	碎部のみ。在来品。
第11回	11	R 22	土師器	軟質	灰白・片岩を含む。	内外面共にハケ目後ナズ。	-	(3.0)	脚部のみ。
第12回	12	R 22	土師器	軟質	黄灰・片岩を含む。	内面工具ナズ後ナズ。外周ナズ微ミダナ。	-	(3.6)	脚部のみ残存。
第13回	13	R 13	土師器	軟質	黄灰・片岩・赤色粒を含む。	内外面共にハケ目後ナズ(後、ミダナ)。	-	(4.0)	脚部小片。
第14回	14	R 10	土師器	軟質	灰白・角閃石・片岩を含む。	内外面共にハケ目後ナズ。胴部内面ケズリ・指押さえ。やや厚縁。	-	(4.6)	小片。やや厚縁。
第15回	15	R 3	土師器	軟質	灰白・片岩・赤色粒を含む。	内外面共にタタキ・ハケ目後ナズ。	(4.0)	(2.1)	底面のみ残存。黒斑有。
第16回	16	R 14	土師器	軟質	黄灰・片岩・赤色粒を含む。	内外面共にハケ目後ナズ。	(3.0)	(2.7)	底面外面に本葉痕有。
第17回	17	R 20	土師器	軟質	灰白・片岩・角閃石・片岩を含む。	内外面共に指押さえ・ナズ。	(4.0)	(2.5)	ミダナ・土器。
第18回	18	R 8	土師器	軟質	灰白・片岩を含む。	内外面共にハケ目後ナズ(厚縁等あり)。内形のミダナあり(西利用)。	-	(3.9)	小片。
第19回	19	R 7	土師器	軟質	黄灰・片岩・赤色粒を含む。	内外面共にハケ目後ナズ。	12.0	(1.9)	口縁部小片。黒斑有。
第20回	20	R 1	土師器	軟質	灰白・片岩を含む。	内外面共にハケ目後ナズ。	-	(3.8)	小片。
【本村遺跡第5次】									
第1回	1	R 6	土師器	軟質	黄灰・片岩・赤色粒を含む。	内外面共にハケ目後ナズ。	12.0	(2.4)	小片。口縁部内外面に指押さえ。
第2回	2	R 2	土師器	軟質	黄灰・片岩・赤色粒を含む。	胴部ナズ成形後底面回転ヘタ切リ。	-	(1.0)	
第3回	3	R 3	土師器	軟質	黄灰・片岩・赤色粒を含む。	胴部ナズ成形後底面回転ヘタ切リ。	-	(1.7)	
第4回	4	R 4	土師器	軟質	黄灰・片岩・赤色粒を含む。	胴部ナズ成形後底面回転ヘタ切リ(厚縁)。	(5.7)	(0.6)	
第5回	5	R 5	土師器	軟質	黄灰・片岩・赤色粒を含む。	胴部ナズ成形後底面回転ヘタ切リ。	(8.2)	(0.9)	
第6回	6	R 1	土師器	軟質	黄灰・片岩・赤色粒を含む。	内外面共にハケ目後粗いナズ。	32.1	15.0	
第7回	7	R 7	土師器	軟質	黄灰・片岩・赤色粒を含む。	内外面共にハケ目後粗いナズ。	46.0	(14.9)	約1/4残存。内外面にミダナ付着。

胎土については、黄灰・黄石を有するものが多く(灰白・黄石)の特徴であること、角閃石は阿蘇山周辺では通常に含まれることを付記する。

第2表 平田・備津町2次通跡調査 出土土器観察表

発掘番号	出土 地点	器形	構成	色調 (外面 /内面)	胎土	成形・整形手法等	寸法		備考 (修理・修繕等)	実測図 番号
							口径 底径	高さ (残存高)		
第1401	S201 ①	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を含む	ハケ目成郡の横内面・口縁部内外面に丁寧なナデ。	—	6.4	小片。	R 123
第1402	S201 ②	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を多く含む	内外面共にナデ。	20.4	—	上層出土。1/2残存。外面磨損劣化。	R 220
第1403	S201 ③	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を多く含む	ハケ目後縁部方向のナデ。	27.1	12.3	1/6残存。外面磨損劣化。外面磨損劣化。	R 129
第1404	S201 ④	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩・赤褐色土を含む	ハケ目後丁寧なリコナデ。	27.6	9.2	口縁1/3	R 134
第1405	S201 ⑤	土師器	横置	灰褐色/灰褐色	石炭・片岩を多く含む	ハケ目後リコナデ。	32.6	8.1	1/5残存。上層出土。外面磨損劣化。	R 64
第1406	S201 ⑥	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・角閃石・白色砂粒を含む	ハケ目後ナデ (外面磨損劣化)	32.0	15.3	1/3残存。上層出土。口縁コグ付着。	R 133
第1407	S201 ⑦	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・角閃石・白色砂粒を含む	ハケ目後リコナデ (内面磨損劣化)	36.9	9.0	1/2残存。上層出土。口縁コグ付着。	R 136
第1408	S201 ⑧	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を多く含む	ハケ目後リコナデ。	41.0	9.4	1/2残存。上層出土。	R 66
第1409	S201 ⑨	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を含む	ハケ目後リコナデ。	43.8	—	約1/4残存。上層出土。	R 219
第1410	S201 ⑩	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を含む	ハケ目後リコナデ。	—	12.9	上層出土。	R 135
第1411	S201 ⑪	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・角閃石を含む	ハケ目後ナデ。	—	7.7	底面のみ。外面磨損劣化。上層出土。	R 67
第1412	S201 ⑫	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を含む	丁寧なナデ。	10.8	3.7	小片。	R 126
第1413	S201 ⑬	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・角閃石・片岩を含む	ハケ目後ナデの後、片岩。内面磨損劣化。	10.0	4.6	約1/4残存。外面磨損劣化。	R 223
第1414	S201 ⑭	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を含む	内外面共にナデ。	—	9.1	約1/4残存。	R 43
第1415	S201 ⑮	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を多く含む	ハケ目後リコナデ。内面磨損劣化。	19.4	8.0	小片。	R 137
第1416	S201 ⑯	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・角閃石を含む	ハケ目後内面ナデ。	20.0	10.6	約1/4残存。磨損の可能性あり。	R 63
第1417	S201 ⑰	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を多く含む	内外面共にハケ目後ナデ。	14.0	12	小片。	R 203
第1418	S201 ⑱	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を含む	外面ハケ目後ナデ。内面磨損劣化。	16.9	18.9	底面のみ約1/2残存。	R 61
第1419	S201 ⑲	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を含む	内外面共にハケ目後ナデ。	26.0	—	約1/4残存。	R 65
第1420	S201 ⑳	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を含む	外面ハケ目後ナデ。内面ナデ (やや磨損)。底面外面に突起部。	27.5	20.7	口縁部約1/4残存。磨損劣化。	R 60
第1421	S201 ㉑	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を多く含む	外面ハケ目後ナデ。底面外面に突起部。	—	15.7	約1/4残存。	R 221
第1422	S201 ㉒	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を含む	内外面共にハケ目後ナデ。	—	8.4	小片。	R 129
第1423	S201 ㉓	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩・緑褐色土を含む	内外面共にハケ目後ナデ。	—	6.6	約1/4残存。	R 68
第1424	S201 ㉔	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を多く含む	内外面共にハケ目後ナデ。	13.8	6.4	約1/4残存。	R 138
第1425	S201 ㉕	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を多く含む	内外面共にハケ目後ナデ。	31.2	4.7	約1/4残存。内外丹着。底面磨損劣化。	R 69
第1426	S201 ㉖	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・角閃石・白色砂粒を含む	内外面共にハケ目後ナデ。口縁部コナデ。	36.0	41.3	口縁部約1/4残存。外面磨損劣化。	R 141
第1427	S201 ㉗	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を含む	内外面共にハケ目後ナデ。口縁部コナデ。底面に突起部。	34.7	—	約1/4残存。磨損劣化。	R 70
第1428	S201 ㉘	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を含む	内外面共にハケ目後ナデ。	11.1	17.9	下平縁のみ。外面磨損劣化。	R 140
第1429	S201 ㉙	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を含む	内外面共にハケ目後ナデ。	—	10.0	小片。	R 100
第1430	S201 ㉚	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を多く含む	内外面共にハケ目後ナデ。内面磨損劣化。	—	8.4	底面のみ。	R 224
第1431	S201 ㉛	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を多く含む	内外面共にハケ目後ナデ。	6.7	3.15	約1/4残存。外面磨損劣化。	R 106
第1432	S201 ㉜	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を含む	内外面共にハケ目後ナデ。	6.9	2.35	約1/4残存。外面磨損劣化。	R 108
第1433	S201 ㉝	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩・緑褐色土を含む	内外面共にハケ目後ナデ。	—	4.5	小片。	R 8
第1434	S201 ㉞	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩・白色砂粒を含む	内外面共にハケ目後ナデ。口縁部コナデ。底面に突起部。	26.8	7.2	約1/4残存。	R 71
第1435	S201 ㉟	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を多く含む	内外面共にハケ目後ナデ。	27.4	—	約1/4残存。	R 227
第1436	S201 ㊱	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・角閃石・白色砂粒を含む	内外面共にハケ目後ナデ。	28.0	4.8	小片。	R 9
第1437	S201 ㊲	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩・緑褐色土を含む	内外面共にハケ目後ナデ。	29.4	—	口縁1/5残存。外面磨損劣化。	R 202
第1438	S201 ㊳	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・角閃石・緑褐色土を含む	内外面共にハケ目後丁寧なナデ。	23.7	6.2	口縁1/5残存。外面磨損劣化。	R 204
第1439	S201 ㊴	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩・白色砂粒を含む	内外面共にハケ目後ナデ。	36.0	—	口縁1/10残存。	R 7
第1440	S201 ㊵	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を含む	内外面共にハケ目後ナデ。内面磨損劣化。	—	10.5	約1/4残存。	R 72
第1441	S201 ㊶	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を含む	内外面共に丁寧なナデ。内面磨損劣化。	9.2	2.9	約1/4残存。口縁上縁のみ。	R 72
第1442	S201 ㊷	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を含む	内外面共に丁寧なナデ。内面磨損劣化。	—	5.8	約1/4残存。	R 73
第1443	S201 ㊸	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を多く含む	内外面共にハケ目後ナデ。	8.9	6.2	約1/4残存。	R 101
第1444	S201 ㊹	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を多く含む	内外面共にハケ目後ナデ。内面磨損劣化。	19.4	4.0	底面磨損劣化。	R 228
第1445	S201 ㊺	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を含む	内外面共にハケ目後ナデ。	26.8	7.9	口縁部約1/4残存。外面磨損劣化。	R 226
第1446	S201 ㊻	弥生土器	横置	にぶい黄緑色/にぶい黄緑	石炭・片岩を含む	内外面共に丁寧なナデの外面側に縦方向のミガキ。上平に縦方向ミガキ。内面磨損劣化。	—	7.9	約1/4残存。外面磨損劣化。	R 74

第2表 平田・備津町2次遺跡調査 出土土器観察表

調査番号	出土 地点	器形	焼成	色面 (外面 /内面)	胎土	成形・整型手法等	寸法		備考 (修理・残存等)	実測図 番号
							口径 口径	高さ (残存高)		
第174回 15	S301- ①全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/緑	石灰・白色砂を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。口縁部は丸み。	34.0	8.5	外周1/1 口縁部は丸み	R 238
第174回 16	S301- ②全土層	弥生土器 土器	軟質	灰黄緑/黄緑	石灰・内周・白色砂を多く含む	外面ハゲ目付ナシ。内面ナシ。	—	14.4	内周・口縁部、 口縁部は丸み	R 10
第174回 17	S301- ③全土層	弥生土器 土器	軟質	黄/緑	石灰・内周・白色砂を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。(今や確認)	—	4.0	口縁部は丸み	K 203
第174回 18	S301- ④全土層	土器 土器	軟質	黄/赤	石灰・片目を多く含む	外面ハゲ目付ナシ。口縁部は丸み。内面ナシ。	—	10.7	口縁部は丸み	R 225
第174回 19	S301- ⑤全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	砂を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	17.6	4.9	口縁部は丸み	R 309
第174回 20	S301- ⑥全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。内面口縁部ナシ。	8.1	16	口縁部は丸み	R 229
第174回 21	S301- ⑦全土層	弥生土器 土器	軟質	黄/赤	石灰・内周・片目を多く含む(人灰)	内外両面にハゲ目付ナシ。	7.9	3.9	口縁部は丸み	R 11
第174回 22	S301- ⑧全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/黄緑	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。口縁部は丸み。口縁部に黄緑色面付。口縁部に黄緑色面付。	23.0 16.7	20.7	口縁部は丸み	R 62
第174回 23	S301- ⑨全土層	弥生土器 土器	軟質	黄/赤	黄/赤/黄緑	内外両面にハゲ目付ナシ。	22.0	8.6	口縁部は丸み	R 12
第174回 24	S301- ⑩全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	砂を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	38.0	5.3	口縁部は丸み	R 1
第174回 25	S301- ⑪全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	6.1	5.3	口縁部は丸み	R 7
第174回 26	S301- ⑫全土層	弥生土器 土器	軟質	明赤黄/灰黄緑	多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	7.6	3.8	口縁部は丸み	R 3
第174回 27	S301- ⑬全土層	弥生土器 土器	軟質	黄/赤	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	9.1	6.05	口縁部は丸み	R 102
第174回 28	S301- ⑭全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	8.9	5.0	口縁部は丸み	R 4
第174回 29	S301- ⑮全土層	弥生土器 土器	軟質	黄/赤	石灰・内周・白色砂を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	10.4	3.5	口縁部は丸み	R 201
第174回 30	S301- ⑯全土層	弥生土器 土器	軟質	明赤黄/にぶい黄	石灰・内周・白色砂を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	16.0	4.9	口縁部は丸み	R 6
第174回 31	S301- ⑰全土層	弥生土器 土器	軟質	黄/赤	白色砂を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	10.0	3.6	口縁部は丸み	R 5
第174回 32	S301- ⑱全土層	弥生土器 土器	軟質	黄/赤	石灰・内周・白色砂を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	36.3	12.7	口縁部は丸み	R 143
第174回 33	S301- ⑲全土層	弥生土器 土器	軟質	明赤黄/にぶい黄	石灰・内周・白色砂を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	32.0	23.6	口縁部は丸み	R 154
第174回 34	S301- ⑳全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	—	—	口縁部は丸み	R 75
第174回 35	S301- ㉑全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	31.0	7.0	口縁部は丸み	R 41
第174回 36	S301- ㉒全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	30.3	8.9	口縁部は丸み	R 127
第174回 37	S301- ㉓全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	—	6.05	口縁部は丸み	R 128
第174回 38	S301- ㉔全土層	弥生土器 土器	軟質	黄/赤	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	5.0	1.0	口縁部は丸み	R 42
第174回 39	S301- ㉕全土層	弥生土器 土器	軟質	黄/赤	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	—	19.0	口縁部は丸み	R 213
第174回 40	S301- ㉖全土層	弥生土器 土器	軟質	黄/赤	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	—	3.4	口縁部は丸み	R 53
第174回 41	S301- ㉗全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	7.0	3.5	口縁部は丸み	R 124
第174回 42	S301- ㉘全土層	弥生土器 土器	軟質	黄/赤	石灰・内周・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	9.5	8.0	口縁部は丸み	R 213
第174回 43	S301- ㉙全土層	弥生土器 土器	軟質	黄/赤	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	—	1.8	口縁部は丸み	R 111
第174回 44	S301- ㉚全土層	弥生土器 土器	軟質	黄/赤	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	—	2.25	口縁部は丸み	R 110
第174回 45	S301- ㉛全土層	弥生土器 土器	軟質	黄/赤	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	24.0	2.3	口縁部は丸み	R 21
第174回 46	S301- ㉜全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	—	2.0	口縁部は丸み	R 25
第174回 47	S301- ㉝全土層	弥生土器 土器	軟質	黄/赤	砂を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	14.0	1.4	口縁部は丸み	R 29
第174回 48	S301- ㉞全土層	弥生土器 土器	軟質	黄/赤	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	—	4.0	口縁部は丸み	R 18
第174回 49	S301- ㉟全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	17.2	6.7	口縁部は丸み	R 19
第174回 50	S301- ㊱全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	26.0	2.1	口縁部は丸み	R 24
第174回 51	S301- ㊲全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	30.6	3.7	口縁部は丸み	R 28
第174回 52	S301- ㊳全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	34.0	2.5	口縁部は丸み	R 17
第174回 53	S301- ㊴全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	34.0	2.6	口縁部は丸み	R 13
第174回 54	S301- ㊵全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	38.0	11.3	口縁部は丸み	R 15
第174回 55	S301- ㊶全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	—	2.4	口縁部は丸み	R 26
第174回 56	S301- ㊷全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	—	4.0	口縁部は丸み	R 114
第174回 57	S301- ㊸全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	—	4.1	口縁部は丸み	R 112
第174回 58	S301- ㊹全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	10.0	4.7	口縁部は丸み	R 30
第174回 59	S301- ㊺全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	12.0	3.5	口縁部は丸み	R 109
第174回 60	S301- ㊻全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	—	4.75	口縁部は丸み	R 108
第174回 61	S301- ㊼全土層	弥生土器 土器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	石灰・片目を多く含む	内外両面にハゲ目付ナシ。	—	2.7	口縁部は丸み	R 22

第2表 平田・備津町2次遺跡調査 出土土器観察表

発掘番号	出土 地	器形	構成	色調 (外・内)	胎土	成形・整形手法等	寸 法		備 考 (修復・保存等)	実測図 番 号
							口縁 直径	高さ (残存高)		
第230図 2.0	S001	赤土土器	軟質	灰黒地にぶい い黄	石灰・片岩	内外面にハケ目捺ナゲ。胴部に黄褐色付後変装に刷目。	—	4.1	小片。	R 9
第230図 3.1	S001	赤土土器 高杯	軟質	灰/ぶい黄緑	石灰・片岩を多く含む	内外面にハケ目捺ナゲ。	—	2.25	杯部のみ。	R 113
第230図 2.2	S001	土師器 高杯	軟質	ぶい黄/ぶい い黄	砂礫少・石灰・角閃石・ 金剛石・緑色粒を含む	内外面にハケ目捺ナゲ。	12.0	2.6	脚部のみ。	R 20
第230図 2.3	S001	赤土土器 高杯	軟質	灰/ぶい黄	砂礫少。	内外面にヨコナゲ。内面(おそく外側面)赤刷。	—	2.0	小片。外面磨滅。	R 27
第230図 2.4	S001	赤土土器 高杯	硬質	灰/黄緑	緑良・砂礫少	内外面に縦線ナゲ(口縁右回り)。	11.0	3.2	小片。	R 307
第230図 2.5	S002	赤土土器	軟質	灰/黄緑	手揉みによる成形。磨滅させ。	手揉みによる成形。磨滅させ。	5.7	4.4	約1/4残存。 底刷。	R 205
第230図 2.6	S002	赤土土器	軟質	灰/黄緑	石灰・片岩を多く含む	内外面にハケ目捺ナゲ。内面磨滅させ。	9.8	6.1	底刷1/4	R 104
第230図 2.7	S002	赤土土器 高杯	軟質	灰/ぶい黄緑	石灰・片岩を多く含む	内外面にハケ目捺ナゲ。内面磨滅させ。	—	2.8	小片 底刷ヨコナゲ	R 103
第230図 2.8	S002	土師器 高杯	軟質	灰/黄緑	砂礫少・石灰・片岩を含む	内外面にハケ目捺ナゲ。	13.0	1.3	脚部のみ小片。	R 14
第230図 2.9	S002	赤土土器 高杯	軟質	ぶい黄/灰	石灰・角閃石・赤褐色粒を含む	内外面に丁寧なナゲ後外面ミガキ。内面磨滅させ。	28.8	12.9	約1/4残存。	R 208
第230図 3.0	S002	赤土土器 高杯	軟質	ぶい黄/灰	石灰・片岩を含む	内外面にハケ目捺ナゲ。	—	6.7	底部のみ。外面磨滅	R 107
第230図 3.1	S002	土師器 高杯	軟質	ぶい黄/ぶい い黄	石灰・片岩を含む (八割)	内外面に丁寧なナゲ(ミガキ不明)。	32.0	2.7	約1/4残存。	R 31
第240図 P05	P05	土師器 高杯	軟質	ぶい黄/灰/ぶい い黄	石灰・角閃石・暗赤褐色粒を含む	内外面にハケ目捺ナゲ。内面ミガキ。	16.2	9.9	約1/4残存。山脈系 (ただし左側)。	R 120
第240図 2	P07	赤土土器 高杯	軟質	ぶい黄/灰	砂礫少	内外面にハケ目捺ナゲ。	13.4	8	外面磨滅ミガキあり	R 122
第240図 3	P08	土師器 高杯	軟質	灰/黄緑	緑良で砂礫少	内外面に丁寧なナゲ後ミガキ。内面に並列線状磨滅 あり。	16.2	6.0	杯部のみ小片。	R 211
第240図 4	P08	赤土土器 高杯	軟質	ぶい黄/灰/ぶい い黄	石灰・片岩・角閃石 を多く含む	内外面にハケ目捺ナゲ。	5.4	2.4	底部の小片。	R 206
第240図 5	P08	土師器 高杯	軟質	ぶい黄/ぶい い黄	石灰・片岩を含む	内外面にハケ目捺ナゲ。	—	1.9	底部のみ。	R 16
第250図 1	南南	赤土土器 高杯	軟質	灰黒地にぶい黄 い黄	石灰・角閃石・片岩を 多く含む	内外面にハケ目捺ナゲ。	27.4	3.5	小片。 外面磨滅付着	R 48
第250図 2	南南	赤土土器 高杯	軟質	ぶい黄/灰	石灰・角閃石・片岩を 含む	内外面にハケ目捺ナゲ。	32.0	3.6	口縁1/3	R 44
第250図 3	南南	赤土土器 高杯	軟質	灰/ぶい黄	石灰・片岩・緑色粒 を含む	内外面にハケ目捺ナゲ。	30.0	6.7	口縁1/3 外面に緑の付着あり	R 51
第250図 4	南南	赤土土器 高杯	軟質	ぶい黄/灰	石灰・角閃石・金剛石 を含む	内外面にハケ目捺ナゲ。	37.8	6	小片。	R 215
第250図 5	南南	赤土土器 高杯	軟質	ぶい黄/ぶい い黄	石灰・片岩を多く含む	内外面にハケ目捺ナゲ。胴部に黄褐色付後変装に刷目。	—	—	小片。	R 214
第250図 6	南南	赤土土器 高杯	軟質	灰黄緑/黄緑	石灰・片岩を多く含む	内外面にハケ目捺ナゲ。	—	5.7	約1/4残存	R 46
第250図 7	南南	赤土土器 高杯	軟質	ぶい黄/灰/オ リーブ黒	石灰・角閃石・片岩・ 白色砂礫を多く含む	内外面にハケ目捺ナゲ。	—	4.9	底部のみ。	R 47
第250図 8	南南	赤土土器 高杯	硬質	灰/黄緑	緑良・砂礫少	内外面に並列線ナゲ後底面磨滅ハケミナゲ。	—	2.2	小片。	R 50
第250図 9	南南	土師器 高杯	軟質	明赤黒/明赤黒	石灰・片岩を含む	内外面に丁寧なナゲ。外面磨滅。	9.0	2.3	口縁部小片。	R 45
第250図 1.0	南南	土師器 高杯	軟質	ぶい黄/ぶい い黄	石灰・片岩を多く含む	内外面にハケ目捺ナゲ。口縁部ヨコナゲ。	19.2	5.5	小片。	R 49
第250図 1.1	南南	土師器 高杯	軟質	ぶい黄/灰/黄 緑	石灰・片岩を含む	内外面にハケ目捺ナゲ。胴部に黄褐色付	17.0	—	口縁1/4	R 52
第260図 1	北東	赤土土器 高杯	軟質	灰黒/ぶい黄 い黄	石灰・片岩を含む	内外面にハケ目捺ナゲ。	35.2	18.7	約1/4残存。外面磨滅 付着(0.5&2同一点)	R 57
第260図 2	北東	土師器 高杯	軟質	ぶい黄/灰/ぶい い黄	石灰・片岩を多く含む	内外面にハケ目捺ナゲ。	17.6	6.9	約1/4残存。 外面に磨滅付着。	R 130
第260図 3	北東	土師器 高杯	軟質	ぶい黄/ぶい い黄	石灰・片岩を含む	内外面にハケ目捺ナゲ後外面磨滅ナゲ。	10.9	6.2	約5/6残存。	R 56
第260図 4	北東	赤土土器 高杯	軟質	灰/黄緑	石灰・片岩を含む	内外面にハケ目捺ナゲ。	—	3.8	約1/4残存。	R 54
第260図 5	北東	土師器 高杯	軟質	灰/黄緑	石灰・角閃石・白色砂 礫を含む	手揉みによる成形。磨滅させ。	5.6 4.9 0.7	3.1	ほぼ光沢付存。 底刷。	R 216
第260図 6	北東	土師器 高杯	軟質	灰/黄緑	砂礫少	内外面にハケ目捺ナゲ丁寧ナゲ。	16.7	4.2	杯部約1/4残存。	R 217
第260図 7	北東	土師器 高杯	軟質	灰/黄緑/ぶい い黄	石灰・片岩を多く含む	ハケ目捺ナゲ。底面外部ミガキ。胴部内面磨滅させ	8.2 1.6	10	約1/2残存。	R 218
第260図 8	北東	土師器 高杯	軟質	灰/黄緑	緑良・砂礫少	(外) ハケ目捺ナゲ ハケミナゲ (内) ハケ目捺ナゲ	—	6.05	杯部～脚上部 外面に磨滅あり	R 121
第260図 9	北東	土師器 高杯	軟質	灰/ぶい黄	砂礫少・片岩・暗赤 褐色粒を含む	内外面に丁寧なナゲ。内面ミガキ。	14.0	5.5	脚部のみ。	R 55
第260図 1.0	北東 1.0	赤土土器 高杯	軟質	灰/ぶい黄	石灰・片岩を含む	内外面にハケ目捺ナゲ。	12.6	6.6	小片。	R 210
第260図 1.1	北東 1.1	赤土土器 高杯	軟質	ぶい黄/灰/黄 緑	石灰・片岩を含む	内外面にハケ目捺ナゲ。口縁部ヨコナゲ。	29.7	2.8	約1/4残存	R 116
第260図 1.2	北東 1.2	赤土土器 高杯	軟質	ぶい黄/ぶい い黄	緑良・砂礫少	内外面にハケ目捺ナゲ。口縁部ヨコナゲ。	32.0	1.95	小片。	R 209
第260図 1.3	北東 1.3	赤土土器 高杯	軟質	ぶい黄/灰/ぶい い黄	石灰・角閃石を含む	内外面にハケ目捺ナゲ。口縁部ヨコナゲ。	—	2.0	小片。	R 119
第260図 1.4	北東 1.4	土師器 高杯	軟質	灰/黄緑	緑良・砂礫少	内外面にハケ目捺ナゲ丁寧ナゲ。内面ミガキ。	—	7.4	脚部のみ。	R 35
第260図 1.5	北東 1.5	赤土土器 高杯	軟質	ぶい黄/灰/黄 緑	石灰・片岩を含む	内外面にハケ目捺ナゲ。胴部に黄褐色付	12.2	—	約1/4残存。 小片。	R 121
第260図 1.6	北東 1.6	土師器 高杯	軟質	ぶい黄/ぶい い黄	石灰・片岩を含む	内外面にハケ目捺ナゲ。内面は丁寧ナゲ。	19.0	4.6	小片。	R 37
第260図 1.7	北東 1.7	赤土土器 高杯	軟質	灰/ぶい黄	石灰・片岩を多く含む	内外面にハケ目捺ナゲ。	—	5.8	小片。	R 118

第2表 平田・徳津町2次通跡調査 出土土器観察表

検出番号	出土 地点	器形	焼成	色顔 内面 /内面	胎土	成形・整形手法等	寸法		備考 (種類・残存等)	実測図 番号
							口径 底径	器高 (残存部)		
第29回 18	東壁	弥生土器 鉢	軟質	灰黄緑/灰黄	石灰・片岩を多く 含む	内外面共にハケ目後ナナズ。内面は丁寧ナナズ。	22.7	8.8	小片。	R 56
第29回 19	東壁	弥生土器 甕	軟質	灰/灰黄緑	石灰・片岩を含む	内外面共にハケ目後ナナズ。胴部に突部付（割目は左 →右に横割）	—	3.8	小片。	R 57
第29回 20	南壁	弥生土器 甕	軟質	にぶい緑/にぶ い黄	石灰・片岩を含む	内外面共にハケ目後丁寧ナナズ。	5.0	1.9	底面のみ。	R 58
第29回 21	東壁	弥生土器 甕	軟質	灰/灰黄緑	石灰・片岩を含む	内外面共にハケ目後ナナズ。内面は丁寧ナナズ。	—	6.9	底面のみ残存。	R 117
第29回 22	東壁	弥生土器 甕	軟質	灰白/にぶい緑	石灰・片岩・暗赤褐 色粒を含む	内外面共にハケ目後ナナズ。内面は丁寧ナナズ。	—	2.2	底面無残存。	R 59
第29回 23	東壁	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄緑/灰 黄緑	石灰・片岩を多く含 む	内外面共にハケ目後ナナズ。内面は丁寧ナナズ。外面に 凹部あり。	5.0	9.7	底面のみ約1/2残存。 底面あり	R 123
第29回 24	東壁	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄緑/に ぶい黄緑	石灰・片岩を含む	内外面共にハケ目後丁寧ナナズ。内外面に凹部あり。	11.4	—	約1/2残存。	R 115
第29回 25	西壁	弥生土器 甕	軟質	灰黄緑/灰黄緑	石灰・片岩を多く含 む	内外面共にハケ目後丁寧ナナズ。	30.0	10.1	約1/2残存。 外側に残存	R 122
第29回 26	北西壁	弥生土器 高杯	軟質	にぶい緑/にぶ い黄	石灰・片岩・角閃石・ 暗赤褐色粒を含む	内外面共にハケ目後丁寧ナナズ。	—	9	胴部のみ。	R 59
第29回 27	北西壁	弥生土器 甕	軟質	緑/にぶい黄	石灰・片岩を含む	内外面共にハケ目後丁寧ナナズ。内面に凹部あり。	10.6	5.3	底面に横割線あり	R 38
第29回 28	北西壁	弥生土器 甕	軟質	にぶい緑/にぶ い黄	石灰・片岩・暗赤褐 色粒を含む	内外面共にハケ目後ナナズ。内面は丁寧ナナズ。	—	5.9	底1/4 残存に凹部あり	R 60
第29回 29	西壁	弥生土器 甕	軟質	にぶい緑/にぶ い黄	石灰・片岩を含む	内外面共にハケ目後ナナズ。内面は丁寧ナナズ。	24.0	8.2	口縁1/3	R 59
第29回 30	西壁	弥生土器 甕	軟質	にぶい緑/にぶ い黄	石灰・片岩を含む	内外面共にハケ目後丁寧ナナズ。	4.9	22.5	胴・底面。外面無残 存。内面ハケ目。857 と同じ。	R 58

第3表 矢原遺跡群浄化権留所調査 出土土器観察表

発掘番号	発掘回 期 号	出土 地点	器形	土質	色相 (外観・ 断面)	胎土	成形・整形手法等	寸 法		備 考 (種類・残存等)
								口徑 (底径)	器高 (残存高)	
第28回 1	R	-	弥生土器	軟質	にぶい黄緑/にぶい黄緑	石炭・片岩・白色砂粒を多く含む。	内外面共にハケ目後ナデ。口縁部に割目。	28.9	(3.0)	小片。外底スス付着。
第28回 2	R	-	弥生土器	軟質	にぶい黄緑/にぶい黄緑	石炭・片岩を多く含む。	内外面共にハケ目後ナデ。	(6.0)	(6.0)	底部分。底面に粘土片の付着有。
第28回 3	R	-	土師器	軟質	成層状/成層状	石炭・片岩・片岩・角閃石を多く含む。	内外面共にハケ目後ナデ。胴部内面ケズリ。	16.9	(4.7)	口縁部小片。
第28回 4	R	-	土師器	軟質	にぶい黄緑/にぶい黄緑	黒炭・砂粒少。	内外面共にナデ成形後。外面ミダキ。	-	(10.0)	胴部のみ約1/3残存。
第28回 5	R	-	土師器	硬質	灰/灰	黒炭・砂粒少。	胴部ナデ成形後。底部分近胴部ハケズリ。	-	(1.7)	小片。
第28回 6	R	-	土師器	軟質	にぶい黄緑/にぶい黄緑	黒石・金色粒を含む。	内外面共にナデ成形。	-	(2.0)	小片。
第28回 7	R	-	土師器	硬質	にぶい黄/にぶい黄	黒炭・砂粒少。	胴部ナデ成形の最底部分近胴部ハケズリ。	-	(3.45)	約1/4残存。外面にハケ目付着有。底面。
第28回 8	R	-	土師器	軟質	にぶい黄/にぶい黄	黒炭・砂粒少。	内外面共にハケ目後ナデ。	12.3	(2.0)	胴部のみ約1/2残存。
第28回 9	R	-	土師器	軟質	オリーブ/灰	石炭・片岩を含む。	胴部ナデ成形の最底部分近胴部ハケズリ。	-	(2.7)	約1/2残存。
第28回 10	R	-	土師器	軟質	灰/灰	黒炭・砂粒少。	内外面共にハケ目後ナデ。	12.0	(1.5)	小片。
第28回 11	R	-	土師器	軟質	灰白/灰白	黒炭・砂粒少。	内外面共にハケ目後ナデ。胴部内面ケズリ。	15.0	(6.0)	内面コゲ付着。
第28回 12	R	-	土師器	軟質	黄/黄	石炭・片岩・片岩を含む。	外面ナデ(やや厚縁)。内面ハケ目後ケズリ。	-	(3.0)	上半部ののみ残存。
第28回 13	R	-	土師器	軟質	灰白/灰白	黒炭・砂粒少。	胴部は内外面共にタタキ後外面ハケ目。口縁部はナデ。	29.6	(10.0)	上半部ののみ2/3残存。内面黄褐色土。
第28回 14	R	-	土師器	軟質	灰白/灰白	黒炭・砂粒少。	胴部は内外面共にタタキ後外面ハケ目。	-	(15.4)	約1/3残存。
第28回 15	R	-	土師器	軟質	黄/黄	黒炭・砂粒少。	内外面共にハケ目後ナデ成形。	7.2 (7.0)	0.6	小片。

a: 石炭・片岩 (矢原遺跡群に特徴的な胎土) b: 石炭・片岩・角閃石・褐色黒色粒 (筑後～熊本地域に特徴的な胎土)

PLATES

図 版



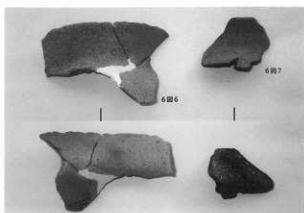
1-1 本村・溝狭間2次調査区（南より）



1-2 本村・溝狭間2次SD02（南東より）



1-3 本村・溝狭間2次SD02出土土器 1



1-4 本村・溝狭間2次SD02出土土器 2



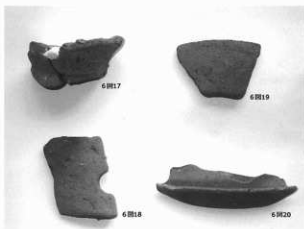
1-5 本村・溝狭間2次SD02出土土器 3



1-6 本村・溝狭間2次SD02出土土器 4



1-7 本村・溝狭間2次SD02出土土器 5



1-8 本村・溝狭間2次SD02出土土器 6

図版 2



2-1 本村・溝狭間3次調査区東半(西より)



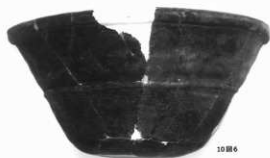
2-2 本村・溝狭間4次調査区(南西より)



2-3 本村・溝狭間5次調査区(南西より)



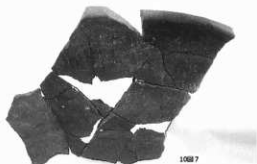
2-4 本村・溝狭間5次 土器出土状況(北より)



2-5 本村・溝狭間5次出土土器1(外面)



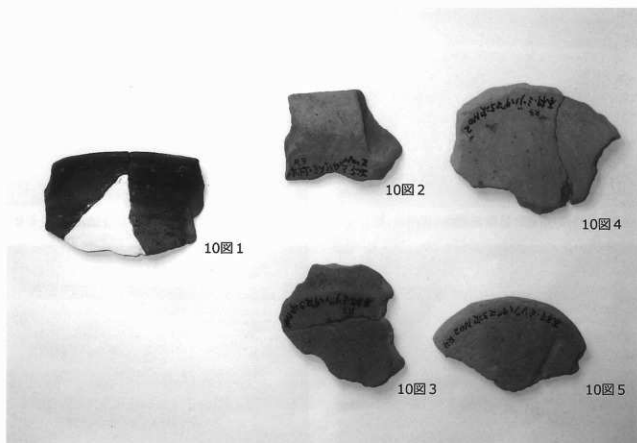
2-6 本村・溝狭間5次出土土器1(内面)



2-7 本村・溝狭間5次出土土器2(外面)



2-8 本村・溝狭間5次出土土器2(内面)



3-1 本村・溝狭間 5 次出土土器 3



3-2 本村・溝狭間 5 次出土土器 4

図版 4



4-1 平田・僧都町遺跡 2次調査区南半(東より)



4-2 平田・僧都町遺跡 2次調査区北半(東より)



4-3 平田・僧都町遺跡 2次 SB01 (西より)



4-4 平田・僧都町遺跡 2次 SB01 土器(南より)



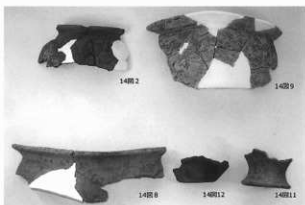
4-5 平田・僧都町遺跡 2次 SB01 東側柱穴



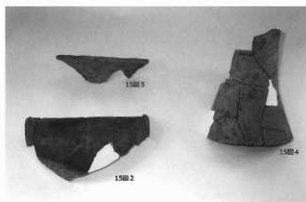
4-6 平田・僧都町遺跡 2次 SD01



4-7 平田・僧都町遺跡 2次
SD02・SK 付近(西より)



4-8 平田・僧都町遺跡 2次
SB01 ① 出土土器 1



5-1 平田・僧津町遺跡 SB01 ①出土土器 2



5-2 平田・僧津町遺跡 SB01 ①出土土器 3



5-3 平田・僧津町遺跡 SB01 ②出土土器



5-4 平田・僧津町遺跡 SB01 ②出土土器 3



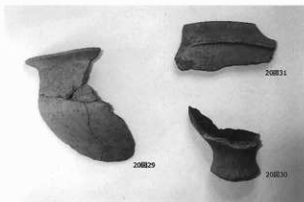
5-5 平田・僧津町遺跡 SB01 ③出土土器



5-6 平田・僧津町遺跡 SD01 出土土器



5-7 平田・僧津町遺跡 SD02 出土土器



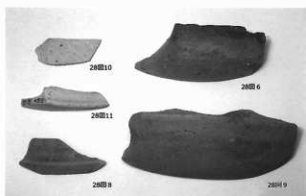
5-8 平田・僧津町遺跡 SK02 出土土器



6-1 矢原遺跡群出土土器 1



6-2 矢原遺跡群出土土器 2



6-3 矢原遺跡群出土土器 3



6-4 矢原遺跡群出土土器 4



6-5 矢原遺跡群出土土器 5



6-6 矢原遺跡群出土土器 6



6-7 矢原遺跡群出土土器 7



6-8 矢原遺跡群出土土器 8

報告書抄録

ふりがな	もとむら・みぞはざまいせき ひらた・そうづまちいせき やばらいせきぐん							
書 名	本村・清狭間遺跡（第2～5次調査） 平田・僧津町遺跡（第2次調査） 矢原遺跡群							
副 書 名	令和2年度個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻 次								
シリーズ名	八女市文化財調査報告書							
シリーズ号	第133集							
編 著 者 名	檀 佳 克（だん よしかつ）							
編 集 機 関	八女市教育委員会							
所 在 地	〒834-8585 福岡県八女市本町647 TEL. 0943-23-1982 FAX. 0943-24-4331							
発 行 年 月 日	西暦 2022年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査理由
		市町村	遺跡番号					
もとむら・みぞはざまいせき 本村・清狭間遺跡 （第2次調査）	ふくおかけんゆめし 福岡県八女市 もとむらあざみぞはざまい 本村字清狭間	402109	405003	33° 13' 11"	130° 33' 25"	202010115 ～ 20201028	約200㎡	個人住宅 建 設
もとむら・みぞはざまいせき 本村・清狭間遺跡 （第3次調査）	ふくおかけんゆめし 福岡県八女市 もとむらあざみぞはざまい 本村字清狭間	402109	405003	33° 13' 11"	130° 33' 27"	20201029 ～ 20201029	約50㎡	個人住宅 建 設
もとむら・みぞはざまいせき 本村・清狭間遺跡 （第4次調査）	ふくおかけんゆめし 福岡県八女市 もとむらあざみぞはざまい 本村字清狭間	402109	405003	33° 13' 11"	130° 33' 28"	20201023 ～ 20201024	約100㎡	個人住宅 建 設
もとむら・みぞはざまいせき 本村・清狭間遺跡 （第5次調査）	ふくおかけんゆめし 福岡県八女市 もとむらあざみぞはざまい 本村字清狭間	402109	405003	33° 13' 10"	130° 33' 28"	20201029 ～ 20201105	約120㎡	個人住宅 建 設
ひらた・そうづまちいせき 平田・僧津町遺跡	ふくおかけんゆめし 福岡県八女市 ひらたあざそうづまち 平田字僧津町	402109	403001	33° 13' 09"	130° 34' 42"	19931108 ～ 19940219	約100㎡	個人住宅 建 設
やばらいせきぐん 矢原遺跡群	ふくおかけんゆめし 福岡県八女市 かまはらあざつづみ 蒲原 字 堤	402109	406016	33° 11' 08"	130° 32' 49"	20201208 ～ 20201208	約3㎡	個人住宅 建 設 （浄化槽）
所収遺跡	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
本村・清狭間遺跡 （第2次～第5次）	集 落 跡	弥生時代・古墳時代 平安時代・中世		溝状遺構1 自然道路1		弥生式土器・土師器・須 恵器・陶磁器		
平田・僧津町遺跡 （第2次）	集 落 跡	弥生時代・平安時代		溝状遺構2・堅穴建物1・土 坑2		弥生式土器・土師器・須 恵器		
矢原遺跡群	集 落 跡	古墳時代・平安時代・ 中世		土坑1か		弥生式土器・土師器・須 恵器		
要 約	令和2年度の個人住宅に伴い実施した遺跡発掘調査に関する報告である。 本村・清狭間遺跡は、宅地の造成により新たに発見された遺跡である。今回は建物基礎が遺跡深度より深くなった4か所の住宅建設予定地について発掘調査を実施し、第2次調査では溝状遺構1と、自然道路のない湿地区と思われる地形の落ち込み（SD02）を検出し、弥生時代・古墳時代・古代の土器等の出土があった。第3次・第4次調査では、遺跡が所在する微高地の端部を検出し、遺跡北側の集落範囲を特定するデータが得られた。第5次調査地では、微高地上で中世・近世の土器の出土があった。 平田・僧津町遺跡では、弥生時代の堅穴建物と溝状遺構・土坑等、集落に伴うと思われる遺構の発見があり、弥生時代中期・後期および平安時代・中世の土器等の出土があった。 矢原遺跡群では、浄化槽掘削範囲に限られた調査であったが、弥生時代・古墳時代・平安時代の土器が出土し、調査区全域が土坑等の遺構である可能性が高い。これまで調査の少ない矢原遺跡群の様相を知る上で貴重な資料を得ることができた。							

※座標は世界測地系による。国土情報院ホームページの地図検索システムより得たものであり、基準点測量によって得た値ではない。

本村・溝狭間遺跡（第2～5次調査）
平田・僧津町遺跡（第2次調査）
矢原遺跡群

八女市文化財調査報告書
第133集

令和4年3月31日

発行 八女市教育委員会
八女市本町647

印刷 橋爪印刷
八女市吉田1899-1